

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
2026年度 授業内容(シラバス)

コミックアート学科 美術・工芸コース 専門教育科目

形態	科目名	教員名	年次	ページ	
講義	美術・工芸論	吉田 真紀子・大原 千尋	1	1	
演習	素描画演習	池田 高広・吉田 真紀子	1	2	
	造形演習	吉田 真紀子・池田 高広	1	3	
	造形演習(立体)	加藤 涼子・池田 高広	1	4	
	写真演習	藤原 純子	1	5	
	写真演習	菅原 広司	1	6	
	彩色描画演習	森 慎司	1	7	
	木炭画	森 慎司	1	8	
	表現演習	中川 健・森村 誠	1	9	
	コンピュータ演習	森田 真雪	1	10	
	版画技法I	池田 高広	1	11	
	版画技法II	吉田 真紀子	1	12	
	メタルクラフト演習	加藤 涼子	1	13	
	彫金演習	桜井 智裕	1	14	
	メタルワーク演習	八木 牧子	1	15	
	陶表現	山村 幸則	1	16,17	
	陶芸素材演習	大原 千尋	2	18	
	コミュニケーション	原田 昌幸	2	19	
	現代美術演習	原田 昌幸	2	20,21	
	ガラス工芸	梅本 幸江	2	22	
	モデル制作	加藤 涼子	2	23	
	材料演習	原田 昌幸	2	24	
	テンペラ技法演習	森 慎司	2	25	
	メタルアート演習	加藤 涼子	2	26	
	マテリアル演習	加藤 涼子	2	27	
	クラフトデザイン	秋永 邦洋	2	28	
	装飾表現	大原 千尋	1	29	
	実習	デッサン	秋永 邦洋	1	30
		美術基礎実習	本庄 剛・池田 高広	1	31
		美術基礎実習	森 慎司・吉田 真紀子	1	32
工芸基礎実習		加藤 涼子・大原 千尋	1	33	
工芸基礎実習		桜井 智裕・秋永 邦洋	1	34	
専門基礎実習I		森 慎司	1	35	
専門基礎実習I		吉田 真紀子	1	36	
専門基礎実習I		加藤 涼子	1	37	
専門基礎実習I		秋永 邦洋	1	38	
専門基礎実習II		森 慎司	1	39	
専門基礎実習II		池田 高広	1	40	

実習	専門基礎実習II	加藤 涼子	1	41
	専門基礎実習II	大原 千尋	1	42
	専門実習I	森村 誠	2	43
	専門実習I	吉田 真紀子	2	44
	専門実習I	加藤 涼子	2	45
	専門実習I	山村 幸則	2	46,47
	専門実習II	本庄 剛	2	48
	専門実習II	八木 牧子	2	49
	専門実習II	池田 高広	2	50
	専門実習II	山村 幸則	2	51,52
	専門実習III	浜本 隆司	2	53
	専門実習III	吉田 真紀子	2	54
	専門実習III	桜井 智裕	2	55
	専門実習III	大原 千尋	2	56
	専門実習IV	浜本 隆司	2	57
	専門実習IV	吉田 真紀子	2	58
	専門実習IV	桜井 智裕	2	59
	専門実習IV	大原 千尋	2	60
	専門実習V	八田 香織	2	61
	専門実習V	吉田 真紀子	2	62
	専門実習V	桜井 智裕	2	63
	専門実習V	大原 千尋	2	64
	専門実習VI	八田 香織	2	65
	専門実習VI	大船 光洋	2	66
	専門実習VI	加藤 涼子	2	67
	専門実習VI	秋永 邦洋	2	68
	卒業制作I	森 慎司	2	69
	卒業制作I	池田 高広	2	70
	卒業制作I	八木 牧子	2	71
	卒業制作I	秋永 邦洋	2	72
卒業制作II	八田 香織	2	73	
卒業制作II	吉田 真紀子	2	74	
卒業制作II	八木 牧子	2	75	
卒業制作II	大原 千尋	2	76	

教員名 吉田 真紀子・大原 千尋 **科目名** 美術・工芸論

教員実務経験 (美術論：吉田) 版画家として制作や発表を行なっている。その経験に基づいて指導します。(工芸論：大原) 個展や数々のグループ展などの発表活動の経験に基づいて指導します。

授業目的と到達目標 【美術論】美術の歴史を知り、その価値観の変遷を学び、考え、自らのオリジナルな価値観の創造を生み出すことを到達目標とします。【工芸論】工芸の歴史を知り、工芸とは何か？美術やデザインとの違いについて理解し、知識を広め、これからの自分の制作に生かせることを到達目標とします。

成績評価方法・基準 授業姿勢、授業内のコメントなど 40% レポート課題 60%

教科書 特になし。プリント資料を制作し使用。

参考書・参考文献 特になし。必要な場合はその都度指示。

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス 授業の進め方、成績評価の方法と基準を説明します。
- 2 美術とは何か？なぜ絵を描くの？目的や役割は？
- 3 美術の歴史を知る 1 印象派、抽象絵画
- 4 美術の歴史を知る 2 シュールレアリズム
- 5 日本と美術 ジャポニズム
- 6 大衆と美術 ポップアート、浮世絵など
- 7 現代の美術 デュシャン以降の現代美術
- 8 これからの美術 AI など
- 9 工芸の定義：工芸とは何か？について歴史や生活から学びます。
- 10 工芸・美術・デザインの対比：実際の作品例をもとに工芸・美術・デザインの違いを考察する。
- 11 アーツ&クラフツ運動と民藝運動について：イギリスのアーツ&クラフツ運動とそれに影響を受けた日本の民藝運動について紹介します。
- 12 暮らしと工芸：日常の暮らしの中にある工芸品について、映画を観たり、「陰翳礼讃」を引用して紹介し、生活と工芸について考えましょう。
- 13 現代の作家作品紹介後、意見交換
- 14 工芸制作について：陶芸・金工・染色・木工・ガラスなどそれぞれの制作工程などの説明。
- 15 これからの工芸：現代の若い世代の工芸作品を鑑賞の後、レポートを書く。

受講上の注意 遅刻・早退・欠席の無いようにしましょう。授業中のおしゃべりと居眠りに注意しましょう。

特記事項

教員名 池田 高広・吉田 真紀子 **科目名** 素描画演習

教員実務経験 吉田) 版画作家として制作や発表を行なっている。池田) 美術家として個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。

授業目的と到達目標 アイデア・発想のための基本的な手法を知り、独自の表現の可能性を広げる。

授業概要 造形分野における基本知識を持ち、応用しながらの課題制作。

成績評価方法・基準 課題作品の評価 90% 受講態度 10%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 色彩の基礎知識 色の三属性 三原色と色相環
- 2 色をつくる 混色
- 3 細密描写 (煮干し+物を赤と黒のボールペンで描く)
- 4 細密描写の続き
- 5 停止定規(紐を落とした形で作る)を使って描く 色鉛筆
- 6 スタンプで描く(ピクセルアート)
- 7 スタンプで描く(ピクセルアート)の続き
- 8 透明のシートを通して描く。ガラス絵の要領で着彩する。
- 9 前回の続き
- 10 フロッタージュをする。素材を集める。
- 11 集めたものでコラージュする。
- 12 鉛筆や筆以外の道具を作って描く。
- 13 新聞紙1枚を塗りつぶしたり、加筆したりして再構築する。
- 14 小さなものを画に入れて写真を撮る。
- 15 記憶をたどるドローイング(昨日の出来事を描く。一場面一部分を選んで描く。)

受講上の注意 受講に必要な用具材料について、各自で持参するものに関しては、必要となる授業の前週までに知らせますので、忘れ物がないように注意すること。

特記事項

教員名 吉田 真紀子・池田 高広 **科目名** 造形演習

教員実務経験 (吉田)作家としての作品制作の経験をもとに、造形表現の基礎となる色彩や構成に関する基礎知識の指導をします。(池田)美術作家としての経験をもとに作品制作の基本的な知識や技術・考え方の指導をします。

授業目的と到達目標 造形化するうえで必要となる基本的な知識と実技による造形力の取得

成績評価方法・基準 課題作品 90% 出席や授業態度 10%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント、参考資料など

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス、「造形について」プリント
- 2 点について、点描
- 3 点の構成
- 4 線について、線の構成
- 5 面について、色彩について(プリント)
- 6 色と表現(四季の表現)
- 7 色彩構成1 自由分割
- 8 色彩構成2 等分割
- 9 色彩構成3 人体の一部から
- 10 不定形からの発想(デカルコマニー)
- 11 コラージュ(異素材の組み合わせで画面を作る)
- 12 図と地が同面積の画面作り(白黒1/2ずつになる画面構成を考える)
- 13 素材研究(絵具や鉛筆以外の描画材料を探す)
- 14 イメージを再構築する。
(一つの風景を描き、コピー、切断、シャッフル再構成の後、イメージして描く)
- 15 14の続き。

受講上の注意 受講に必要な用具、材料について各自で持参するものに関しては、必要となる授業の前週までに知らせますので、忘れ物のないように注意すること。

特記事項

教員名 加藤涼子 池田高広 **科目名** 造形演習（立体）

教員実務経験 加藤）ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。池田）美術作家としての経験をもとに作品制作の基本的な知識や技術・考え方の指導をします。

授業目的と到達目標 平面で描いた図を立体で作る為の考え方・立体物として表現するための基礎知識・図面の書き方・基本的な道具の使い方を学びます。

授業概要 立体造形4つの課題テーマより、異なる素材を使って立体へ作り上げる視点と造形の考え方を学習します。

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント配布

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 授業ガイダンス、立体造形について、図面の書き方、課題①のデザイン、図面
- 2 課題① 線で立体を造形する
- 3 課題① 線で立体を造形する
- 4 課題② 面を組み合わせて立体・多面体を造形する
- 5 課題② 面を組み合わせて立体・多面体を造形する
- 6 課題② 面を組み合わせて立体・多面体を造形する
- 7 課題③ 平面から立体を造形する
- 8 課題③ 平面から立体を造形する
- 9 課題③ 平面から立体を造形する
- 10 課題③ 平面から立体を造形する
- 11 課題③ 平面から立体を造形する
- 12 課題④ 塊を削り出して立体を造形する
- 13 課題④ 塊を削り出して立体を造形する
- 14 課題④ 塊を削り出して立体を造形する
- 15 課題④ 塊を削り出して立体を造形する

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください

特記事項

初回ガイダンスにて準備物の説明をするので2回目の授業から用意してください

教員名 藤原 純子 **科目名** 写真演習

教員実務経験 写真デザインの制作者による基礎から実践までの写真表現の演習。

授業目的と到達目標 写真撮影の楽しさを知る。一眼レフを使ったカメラの基本操作の理解。平面作品撮影の基礎を学ぶ。デジタル処理の基礎を学ぶ。

授業概要 写真の原理から実際の撮影、アウトプットの多様性まで、総合的に体験する

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 作品評価・理解度 50%

教科書 特になし。プリント資料を制作し使用。

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 カメラと写真(講義)
- 2 ピンホール写真(カメラを作る)
- 3 ピンホール写真(撮影する・現像する)
- 4 カメラ機構とシャッター速度について(講義)
- 5 撮影(一眼レフを使用した写真撮影)
- 6 合評・被写界深度について(講義)
- 7 構図とレンズの特性(講義)
- 8 撮影(一眼レフを使用した写真撮影)
- 9 合評・デジタル写真について(講義)
- 10 撮影とレタッチ
- 11 組み作品「音を見る」
- 12 組み作品「音を見る」
- 13 合評・ポートフォリオ作成について(講義)
- 14 作品撮影とポートフォリオ(作品撮影の方法)
- 15 ポートフォリオ作成

受講上の注意 ステップアップ式に積み上げる授業内容なので、遅刻・欠席がないように注意すること。

特記事項 一眼レフカメラは学校の備品を使用。各自のカメラを持参してもよいが一眼に限る。

教員名 菅原 広司 **科目名** 写真演習

教員実務経験 映像デザインの制作者による基礎から実践までの写真表現の演習。

授業目的と到達目標 写真撮影の楽しさを知る。一眼レフを使ったカメラの基本操作の理解。平面・立体作品撮影の基礎を学ぶ。デジタル処理の基礎を学ぶ。

授業概要 写真の原理から実際の撮影、アウトプットの多様性まで、総合的に体験する

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 作品評価・理解度 50%

教科書 特になし。プリント資料を制作し使用。

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 カメラと写真 (講義)
- 2 ピンホールと写真 (カメラを作る)
- 3 ピンホールと写真 (撮影する・現像する)
- 4 カメラ機能とシャッター速度について (講義)
- 5 撮影 (一眼レフを使用した写真撮影)
- 6 合評・被写界深度について (講義)
- 7 構図とレンズの特性 (講義)
- 8 撮影 (一眼レフを使用した写真撮影)
- 9 合評・デジタル写真について (講義)
- 10 撮影とレタッチ
- 11 組み作品「音を見る」
- 12 組み作品「音を見る」
- 13 合評・ポートフォリオ作成について (講義)
- 14 作品撮影とポートフォリオ (作品撮影の方法)
- 15 ポートフォリオ

受講上の注意 ステップアップ式に積み上げる授業内容なので、遅刻・欠席がないように注意すること。

特記事項 一眼レフカメラは学校の備品を使用。各自カメラを持参してもよいが一眼レフに限る。

教員名 森 慎司 **科目名** 彩色描画演習

教員実務経験 主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。

授業目的と到達目標 色材の使い方を知ることと絵画制作の手順の学習を通して水溶性絵の具の効果を知る。

授業概要 テーマごとの課題制作を通して、水彩えのぐ(透明、不透明)、パステル、色鉛筆、樹脂系えのぐ(アクリル)などの教材を習得する。

成績評価方法・基準 課題の制作と作品提出 85% 平素の受講姿勢と学習意欲 15%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題1 静物画1 色鉛筆
- 2 課題1 静物画1 色鉛筆
- 3 課題2 静物画2 透明水彩
- 4 課題2 静物画2 透明水彩
- 5 課題3 静物画3 (花) 透明水彩
- 6 課題3 静物画3 (花) 透明水彩
- 7 課題3 静物画3 (花) 透明水彩
- 8 課題4 静物画4 透明水彩
- 9 課題4 静物画4 透明水彩
- 10 課題4 静物画4 透明水彩
- 11 課題4 静物画4 透明水彩
- 12 課題5 自画像1 色鉛筆
- 13 課題5 自画像1 色鉛筆
- 14 課題5 自画像2 アクリルガッシュ
- 15 課題5 自画像2 アクリルガッシュ

受講上の注意 汚れてもよい服装などに留意すること

特記事項

教員名 森 慎司 **科目名** 木炭画

教員実務経験 主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。

授業目的と到達目標 主に木炭の表現力を知るとともに、絵画表現の基本となる形態と量感表現を習得する。

授業概要 テーマごとの課題制作。モチーフを写生しながら、形態・プロポーションをとらえる。

成績評価方法・基準 課題の制作と作品の提出 85% 平素の受講姿勢と学習意欲 15%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題1 グレースケールの制作
- 2 課題2 石膏像1
- 3 課題2 石膏像1
- 4 課題3 自画像
- 5 課題3 自画像
- 6 課題3 自画像
- 7 課題4 石膏像2
- 8 課題4 石膏像2
- 9 課題4 石膏像2
- 10 課題5 静物
- 11 課題5 静物
- 12 課題6 人物 ポーズ1
- 13 課題6 人物 ポーズ1
- 14 課題7 人物 ポーズ2
- 15 課題7 人物 ポーズ2

受講上の注意 木炭を用いるので汚れてもよい服装に留意すること

特記事項

教員名 中川 健 森村 誠 **科目名** 表現演習

教員実務経験 (森村)表現演習に関して、美術作家の経験を元に指導します。
(中川)現役の美術作家としての表現の経験(主に絵画)を活かし、技術力や画材の知識、物事の捉え方などを指導します。

授業目的と到達目標 作品制作の為の表現力/技法を習得し、独自に展開させることにより制作の為の表現力/技法の幅を広げることを到達目標とします。

授業概要 技法/表現方法などを通じて、作品制作を考える為のポイントを感じてもらう。また合評により各々の考え方を理解する。

成績評価方法・基準 作品評価 80% 取組み・授業態度 20%

教科書 参考書・参考文献 参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス 2～8 中川 9～15 森村
- 2 3 絵画の平面性立体的なものに絵画を展開してみる。絵画とは紙やキャンバスなど平面的で厚みのない基盤に描くものという既成観念からの脱却。
- 4 ワークショップ-マスケットインク マスケットインクを使った作品作りの体験。
合評
- 5 6 絵画のトリミング “ものを観る”時の視点を意識し、自分が持つ美の独自性を考える、風景をリサーチしてトリミングのシミュレーションを行う。
- 7 絵画のトリミング “ものを観る”時の視点を意識し、自分が持つ美の独自性を考える。制作
- 8 制作、合評
- 9 イメージではなく概念的な作品制作を体験：ヒアリング・自分の興味の分析
- 10 イメージではなく概念的な作品制作を体験：メディア・素材の選択
- 11-14 イメージではなく概念的な作品制作を体験：制作
- 15 イメージではなく概念的な作品制作を体験：合評

受講上の注意

特記事項

教員名 森田 真雪 **科目名** コンピュータ演習

教員実務経験 CG/デジタルアート制作の経験を活かして、コンピュータを使った実践的なグラフィックデザイン制作の基礎を指導します。

授業目的と到達目標 PCを使ってAdobe Photoshop (Ps) やIllustrator (Ai) の基本的な使い方を学びます。ダイレクトメールや名刺・ポートフォリオが作成できるようになることが目標です。

授業概要 PCの基本操作と各種Adobeソフトの基本操作を学びます。

成績評価方法・基準 出席 10% 授業に取り組む姿勢 30% 課題の評価 60%

教科書 特になし、プリントを制作し配布

参考書・参考文献

参考URL

<https://www.adobe.com/jp/learn/photoshop>

<https://www.adobe.com/jp/learn/illustrator>

授業計画(予定)

- 1 コンピュータ概論 OS基本操作・ファイル管理
- 2 Ps 基礎編 ビットマップ画像・インターフェイスと基本操作・トリミング・色補正・フィルタ・レタッチ
- 3 Ps 基礎編 選択範囲・レイヤー・スマートオブジェクト /画像の合成-1
- 4 Ai 基礎編 ベクトル画像・インターフェイスと基本操作
- 5 Ai 基礎編 線と塗り・パスの編集・図形 /地図の作成
- 6 Ai 基礎編 文字について・レイアウト
- 7 応用 DM作成
- 8 応用 DM作成 仕上げ
- 9 Ps 発展編 ペイント機能・ブレンドモード
- 10 Ps 発展編 チャンネルとレイヤーマスク /合成-2
- 11 Ai 発展編 複雑な線の編集 (ロゴトレース・イラスト)
- 12 Ai 発展編 複雑な文字組み (文字間調整・文字変形)
- 13 総合課題 名刺の作成
- 14 総合課題 ポートフォリオの作成
- 15 総合課題 ポートフォリオの作成

特記事項

教員名 池田 高広 **科目名** 版画技法 I

教員実務経験 美術作家としての個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。

授業目的と到達目標 平版(リトグラフ)による表現方法の習得。版での思考の幅を広げる。

授業概要 3種類の平板での作品制作を体験する。それぞれの版の特徴を理解し、自身の作品制作を楽しむ。

成績評価方法・基準 技能習得と受講姿勢 30% 提出作品による評価 70%

教科書 なし。必要に応じてプリント資料配布

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス リトグラフ 課題説明
- 2 リトグラフ(ウォーターレス) 2版2色刷り
- 3 リトグラフ(ウォーターレス) 下絵現行完成
- 4 リトグラフ(ウォーターレス) アルミ板に描画→シリコン塗布
- 5 リトグラフ(ウォーターレス) 刷り①
- 6 リトグラフ(ウォーターレス) アルミ板に描画→シリコン塗布
- 7 リトグラフ(ウォーターレス) 刷り②
- 8 リトグラフ(PS版) 課題説明→フロッタージュ→コラージュ
- 9 リトグラフ(PS版) 下絵原稿完成→ポジ原稿作成
- 10 リトグラフ(PS版) 製販
- 11 リトグラフ(PS版) 刷り
- 12 リトグラフ(PS版) 刷り
- 13 平版 モノタイプ
- 14 平版 モノタイプ
- 15 エディションナンバー、サインの記入 作品提出 合評

受講上の注意 毎回、説明、講義から始まるので、遅刻、欠席のないように。

特記事項

教員名 吉田 真紀子 **科目名** 版画技法Ⅱ

教員実務経験 版画作家としての経験をもとに、版を使うことによってできる表現方法についての指導をします。

授業目的と到達目標 凸版技法による表現方法の取得。凸版の技法を身につけ自らのイメージを作品にすることを目的とする。

授業概要

成績評価方法・基準 作品技法の理解、習得度を総合的に評価 90% 出席、課題取り組みなどの受講姿勢 10%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント、参考資料など

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 凸版の技法で制作を行う。消しゴムはんこ・・・消しゴムをカッターナイフ、彫刻刀などで加工し、スタンプを作る。自分のマークを作る。製販・印刷
- 2 単純な形を連続してスタンプすることによって大きな作品に展開させる。製販、印刷。
- 3 リノカット(一版単色刷り)リノリウム版を彫刻刀で加工して版を作る。彫刻刀独特のタッチと単純化された明暗のバランスを意識して製作する。製販。
- 4 リノカット 製販・印刷
- 5 板目木版(一版多色刷り) 板目の木版を彫刻刀で加工して版を作る。いちまいの版で彫と刷りを繰り返して作品を作り上げる。製販
- 6 板目木版(一版多色刷り) 製販・印刷
- 7 板目木版(一版多色刷り) 製販・印刷
- 8 板目木版(一版多色刷り) 製販・印刷
- 9 板目木版(一版多色刷り) 製販・印刷
- 10 木口木版(一版墨刷り) 木口の版木を用いてビュランで時間をかけて彫刻し、版を作る。
- 11 木口木版(一版墨刷り) 製販・印刷(試し刷り)
- 12 木口木版(一版墨刷り)
- 13 紙版画 コラグラフ…台紙に色々な素材(祖布、紙、ヒモなど)を貼り付けたり、ボンドやジェッソなどでマチエール(表面の凹凸)をつけて版を作る。製販
- 14 コラグラフ 製販・印刷
- 15 その他の紙版画…紙材は自由な形に切ったり、表面に凹凸を作ることが容易にできる素材なのでその特性を生かし、自由な発想で版作りを行う。

受講上の注意 自分の作品制作という意識を持って積極的に取り組むこと。

特記事項

教員名 加藤 涼子 **科目名** メタルクラフト演習

教員実務経験 ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。

授業目的と到達目標 金属工芸の基礎や伝統技法、図面に従った制作の重要性を学習し計画性を身に付けます。

授業概要 図面の書き方や図面上での表現方法を学習します。伝統工芸である木目金を地金から作る工程を学び基礎技術の習得と応用表現を展開します。

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント配布

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 素材の説明・解説・加工方法・作業手順の説明・陽極酸化処理加工による色見本制作
- 2 色見本の作成
- 3 課題① チタン陽極酸化処理加工のアクセサリー(アイデアスケッチ・図面制作)
- 4 課題① 下処理・着色・切断・削る
- 5 課題① 研磨・仕上・組立
- 6 課題② 鋳型作り(道具作り)削る
- 7 課題② 鋳型作り・研磨・仕上・試打
- 8 課題② 鋳型を使ったスタンピングアクセサリー(アイデアスケッチ・図面制作)
- 9 課題② 鋳型を使ったスタンピングアクセサリー(打・切断・削)
- 10 課題② 鋳型を使ったスタンピングアクセサリー(接合・組立・研磨・仕上)
- 11 課題③ 板材中空アクセサリー(アイデアスケッチ・図面制作)
- 12 課題③ 板材中空アクセサリー(切断・削)
- 13 課題③ 板材中空アクセサリー(接合・組立)
- 14 課題③ 板材中空アクセサリー(切断・削・接合・組立)
- 15 課題③ 板材中空アクセサリー(研磨・仕上)

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用

特記事項

教員名 桜井 智裕 **科目名** 彫金演習

教員実務経験 造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導していきたいと思えます。

授業目的と到達目標 金属を加工して作品を作る「金属工芸」の基礎的な技法の経験と習得を目指しています。同時に作品制作におけるアイデア、発想の煮詰め方を学び、より表現の幅を広げることも目指しています。

授業概要

成績評価方法・基準 作品の評価点(完成度やアイデアの工夫など) 95%
平常点(作品制作時の取り組み姿勢など) 5%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ブックエンド 真鍮板を使ったブックエンド制作(腐食) 授業ガイダンス、課題説明、アイデアチェック、デザインが決まった人から作品制作
- 2 作品制作 図案のコピーを地金に貼った糸鋸で切る マスキングをして腐食
- 3 作品制作 はんだ付けや曲げ加工により形を組み上げる。
- 4 作品制作 磨いて仕上げる 着色する、合評、次の課題説明
- 5 糸鋸刃ケース 真鍮のパイプを使った鋸刃入れ制作 アイデアチェック、作品制作
- 6 作品制作 筒、ジョイント部分制作
- 7 作品制作 ロウ付け、仕上げ 合評、次の課題説明
- 8 小物入れ制作 銅版と真鍮パイプを使った小物入れ制作(打ち出し) アイデアチェック、本体制作
- 9 本体(入れ物部分)制作 真鍮パイプで本体をつくる
- 10 本体(入れ物部分)制作 ロウ付け、はんだ付け
- 11 本体(入れ物部分)制作 本体を磨く
- 12 打ち出しの部分を制作 銅版を切り木タガネで形を作っていく
- 13 打ち出しの部分を制作 松ヤニに留め、金タガネで打っていく
- 14 打ち出しの部分を制作 金タガネの続き
- 15 本体と打ち出しを組む 打ち出しを仕上げ、着色、本体に接着 合評

受講上の注意 実習中は衣服等が汚れたり、破損したりしますので、必ず作業服に着替えて実習を受けてください。また、靴下も動きやすく素足が露出していないもの、(ハイヒールやサンダル、ぞうりは不可です)

実習時に毎回持参してくるもの：雑巾又はタオル、筆記用具、作業用の服、工具、スケッチブック又はクロッキー帳(A4程度の大きさがあれば良いです)

特記事項

教員名 八木 牧子 **科目名** メタルワーク演習

教員実務経験 ジュエリー 作家の元で修行後、読売新聞社の彫金教室や大阪市立クラフトパークなどで Metal Work の技術を指導する現役彫金作家が指導します。

授業目的と到達目標 ジュエリー制作の基本的な知識と技術を修得し、もの作りへの興味を深め、制作意欲や技術を向上させ、今後への作品づくりに発展させることを目標としています。

成績評価方法・基準 作品の完成度 45% 課題への取り組み態度 25%
理解度 20% 出席状況 10%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL <https://youtu.be/O F 2u1bq6Zi8> URL) <https://youtu.be/FqsGr00DHcE>

授業計画(予定)

- 1 宝石付き 羽根の形のアクセサリーを作る
- 2 カボションカット石の覆輪石留め技法の練習
- 3 銀の板を使い羽根を作り 模様をつける
- 4 ロウ付け技法や石留め技法を使い完成させる
- 5 七宝焼きを使ったジュエリー作る
- 6 七宝焼きの素地を作る
- 7 素地に釉薬を盛り付け焼成
- 8 ジュエリー部分の制作
- 9 七宝焼きとジュエリー部分を組み立て完成させる
- 10 宝石付きリングを作る
- 11 指輪のデザインを考える
- 12 カボションカット石の爪留め技法の練習
- 13 石座の制作
- 14 リングの制作
- 15 石留めをして仕上げ 完成させる

受講上の注意 ジュエリー作りの基礎、石留めの基礎をしっかりと学び2年生の授業に活用してもらいたいです。

特記事項

教員名 山村 幸則 **科目名** 陶表現

教員実務経験 美術家として国内外で数多くの滞在制作、展覧会プロジェクト、ワークショップ等に取り組んでいる経験を元に陶芸の技法と表現を指導します。

授業目的と到達目標 この授業では陶芸の領域を俯瞰し、現代社会や日常生活の中に各々のリアリティーを見出し、潜在する個性や拘り陶の表現と結びつけることを目的とする。それぞれの生まれ育った環境、国や地域、または特定の場所(仮定)の為に作品を提案、制作する。既成の領域や空間を飛び出し、サイトスペシフィック・アートの要素である場所の特性(環境、歴史、文化等)を陶表現に取り入れ、より独創的な自己表現に到達することを目標とする。

授業概要

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 課題姿勢 50%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 インTRODククション：自分と作品、場所との関係性について授業全 15 回で使用するスケッチブックを制作する(毎回の記述や描写を重ねてゆく)既製品を独創的な 1 冊に制作する、または、各自選択した用紙を綴じ、創造的な 1 冊を制作する
- 2 美章園から着想する作品の提案(第 15 回合評にて作品提出、発表を行います) 美章園を歩く①フィールドワーク：五感を働かせながら街中を歩き撮影、メモ、スケッチ、採集、記録する教室にて各自の視点を整理する。(アイディアスケッチ、習作)全体での情報共有と意見交換
- 3 美章園を歩く②フィールドワーク：五感を働かせながら街中を歩き撮影、メモ、スケッチ、採集、記録する 教室にて各自の視点を整理する(アイディアスケッチ、習作) 全体での情報共有と意見交換
- 4 美章園から着想する作品の提案(5~10 通り)を考える 各々の提案の可能性を探り、方向性を見出す全体で情報共有と意見交換アイディアスケッチや習作などを用いながら発表する
- 5 各々の提案、特定の作品設置場所(仮定)に合った制作方法を選択し、ある程度、表現の方向性を定める(手捻り、型成形、くり抜き、板づくり、輔轄成形、その他)
- 6 各々の制作進行状況を確認し、意見交換 制作試行(基本構想の展開、テストピースの制作、異素材の実験等)
- 7 各々の制作進行状況を確認し、意見交換 制作試行(基本構想の展開、テストピースの制作、異素材の実験等)
- 8 中間発表制作の進捗について全体共有前半を振り返り、後半への課題を見出し、制作を進める
- 9 各々の制作進行状況を確認し、制作を進める素焼き制作過程の記録
- 10 各々の制作進行状況を確認し、制作を進める素焼き制作過程の記録
- 11 各々の制作進行状況を確認し、制作を進める素焼き制作過程の記録
- 12 各々の制作進行状況を確認し、制作を進める素焼き制作過程の記録
- 13 焼成後の作品の仕上げ、補修 完成へ向けて作品の展示方法の検討と制作 美章園を歩く①②フィールドワークで見出したお気に入りの場所を訪れ、作品との関係性を確認

14 作品と作品設置場所(仮定)の撮影と画像の加工編集合評に向けての資料の制作(ポートフォリオ、全授業の記録)展示用品、額装、その他の制作

15 合評

受講上の注意 遅刻欠席をしないこと。作業しやすい服装で受講すること。筆記用具、スケッチブックを持参のこと。

特記事項

教員名 大原 千尋 **科目名** 陶芸素材演習

教員実務経験 陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 土や化粧、釉薬など陶芸の材料について基礎的な知識を知り、実際にテストし自分の制作に活かせるようにする。

授業概要 土、化粧土、釉薬、それぞれの材料を調合してテストピースを作る。作ったテストピースをパネルに貼って保存する。

成績評価方法・基準 出席状況 80% 課題提出状況 20%

教科書

参考書・参考文献 陶芸の釉薬—理論と調製の実際 出)理工学社 著)大西 政太郎
陶芸の伝統技法 出)理工学社 著)大西 政太郎
やきものをつくる釉薬応用ノート 出)双葉社 著)津坂 和秀

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス 授業の概要説明など テストピースの型を作る
- 2 土のテストピースを作る(土の調合)
- 3 土のテストピースの成形
- 4 施釉と焼成
- 5 化粧土用のテストピースと釉薬用のテストピースを作る(型を使って成形)
- 6 化粧土の説明と調合
- 7 化粧土の調合
- 8 施釉と焼成
- 9 釉薬の説明と調合
- 10 釉薬の調合
- 11 釉薬の調合
- 12 焼成
- 13 パネルの準備
- 14 テストピースのパネル貼り
- 15 合評

受講上の注意 遅刻、欠席は、著しい遅れを生じますので、気をつけてください。

特記事項

教員名 原田 昌幸 **科目名** コミュニケーション

教員実務経験 現代美術作家「原田要」として数々の発表を行ってきた経験や、幼児教育を専門とした大学での実習指導などでの経験を活かし、人と人、人と作品の相互関係について幅広く指導していきます。

授業目的と到達目標 コミュニケーションとは、様々なもののあいだに生じる。人と人、人とモノ、人と環境、自己と自己。アーティストにとって必要なコミュニケーションとは、他者との相互理解だけでなく、自己と周りを取り囲む環境との関係性も重要な要素である。そして何よりも、自己と自己の意識野との関係、ひいては自己の作品世界との関係性こそが、アーティストにとっての重要なコミュニケーションカとなる。本授業では、様々な制作やワークショップを体験する中で、自己の作品制作におけるコンセプトの構築に結び付けることが出来るように展開していく。

授業概要

成績評価方法・基準 作品 80% 態度 20%

教科書 なし

参考書・参考文献 授業内容に応じてプリントなどを配布する

参考 UR

授業計画(予定)

- 1 自分史グラフを作る 興味のあるものを思い出しながら、自己の関心の変遷を辿る
- 2 他者紹介 ペアになって、相手の興味やこれまでの歩みをインタビューする
- 3 自分のマトリックスを作る
- 4 社会のマトリックス作成
- 5 きれいな汚れを探そう 学校の周りを探索し、ふだん見逃してしまうが気になる汚れを撮影し発表する
- 6 物語りを想像する 1 5W1Hのキーワードから、物語を考える
- 7 物語りを想像する 新聞の知らない人物の切り抜きから、生活や物語を考える
- 8 物語を絵にする 前回作成した物語を1枚の絵にしてみる
- 9 自己と作品、社会と作品の関係について
- 10 違う視点で描く 1 視点を変えて描いてみる
- 11 違う視点で描く 2 福田美蘭を参考に、名画を違う視点から描く
- 12 違う視点で描く 3 前回の絵を完成させる
- 13 自分の作品を違う視点で描く 1
- 14 自分の作品を違う視点で描く 2
- 15 これまでの活動を総括する

受講上の注意 本演習は単独で行うものもありますが、互いに協力しながら進めていくものも多いので、欠席すると他のメンバーが困ることになります。必ず出席するようにしてください。

特記事項

教員名 原田 昌幸 **科目名** 現代美術演習

教員実務経験 現代美術作家「原田要」として作品発表を行ってきた経験を活かし、現代におけるアートの在り方を多方面から指導していきます。

授業目的と到達目標 “オブジェからポップ・アートへ”と“平面の自覚”の2つの柱とし、追体験を通して多様化する現代美術への基礎的理解を図る。単に現代美術の状況を知るだけでなく、体験談や合評を重ねる中で、各自の制作についても、本来何が重要なのかを考えて行く。

授業概要

成績評価方法・基準 作品 60% 合評での発言など 30% 平常点 10%

教科書 なし

参考書・参考文献 必要に応じてプリントなどを配布する

参考 UR

授業計画(予定)

- 1 オリエンテーション
- 2 オブジェについて 普段何気なく使っている“製品”が、使えない存在になることで“オブジェ”という見られる作品になる。 教室の椅子をオブジェにしてみる。
- 3 フロッタージュによるシュール - 平面作品
- 4 フロッタージュによるシュール - 立体作品
- 5 ポップ・アートについて アンディ・ウオーホルに代表されるポップ・アート。単に見た目の魅力ではなく、社会や時代に対する深い意義があるのだが、それを知ったうえで、“今”をテーマに制作する。
- 6 ポップ・アートについて アンディ・ウオーホルに代表されるポップ・アート。単に見た目の魅力ではなく、社会や時代に対する深い意義があるのだが、それを知ったうえで、“今”をテーマに制作する。
- 7 ポップ・アートについて アンディ・ウオーホルに代表されるポップ・アート。単に見た目の魅力ではなく、社会や時代に対する深い意義があるのだが、それを知ったうえで、“今”をテーマに制作する。
- 8 インスタレーションについて 空間を生かしたインスタレーション(仮説芸術)について。 クリストについて学習し、新聞紙を素材に空間を作る。
- 9 インスタレーションについて 空間を生かしたインスタレーション(仮説芸術)について。 クリストについて学習し、新聞紙を素材に空間を作る。
- 10 オールオーバーについて 抽象表現主義のオールオーバーな画面の持つ意味を理解し、作品制作する。
- 11 オールオーバーについて 抽象表現主義のオールオーバーな画面の持つ意味を理解し、作品制作する。
- 12 オールオーバーについて 抽象表現主義のオールオーバーな画面の持つ意味を理解し、作品制作する。
- 13 ミニマルアートについて ミニマルアートそのものについて理解しながら、各自の制作している絵画やプリント作品の要素を見つめなおし、自身の作品にとって本当に必要な最小限のものは何なのかについて考える。
- 14 ミニマルアートについて ミニマルアートそのものについて理解しながら、各自の制作している絵画やプリント作品の要素を見つめなおし、自身の作品にとって本当に必要な最小限のものは何なのかについて考える。

15 ミニマルアートについて ミニマルアートそのものについて理解しながら、各自の制作している絵画やプリント作品の要素を見つめなおし、自身の作品にとって本当に必要な最小限のものは何なのかについて考える。

受講上の注意 制作の作品内容よりも、合評でのお互いの考え方を重視する内容になっていますので、欠席することのないように。堅苦しく考えず、思いついたことを気軽に何でも話し合う場にしたいので、積極的に発言してください。

特記事項

教員名 梅本 幸江 **科目名** ガラス工芸

教員実務経験 ガラス作家としての制作経験と、工房での体験や教室の指導経験を元にガラス工芸の基礎と表現を指導します。

授業目的と到達目標 キャスト（鋳造）とフュージングの2つの技法を学び、素材の特徴や表現の可能性を考えながら制作する。

成績評価方法・基準 作品のデザイン力、完成度 60% 課題への取り組み態度 40%

教科書

参考書・参考文献

参考 UR

授業計画(予定)

- 1 課題説明（キャスト）作品デザイン、テストピース原型制作
- 2 （キャスト）テストピース原型仕上げ、石膏型制作
- 3 （キャスト）ガラス計量、ガラス充填、窯入れ
- 4 （キャスト）焼成、粘土原型制作
- 5 （フュージング）作品デザイン、ガラスカット
- 6 （フュージング）焼成（キャスト）粘土原型制作
- 7 （フュージング）焼成（キャスト）粘土原型制作
- 8 （フュージング）仕上げ（キャスト）粘土原型制作
- 9 （キャスト）粘土原型仕上げ、石膏型制作
- 10 （キャスト）ガラス計量、ガラス充填
- 11 （キャスト）ガラス充填、窯入れ
- 12 （キャスト）焼成
- 13 （キャスト）作品取り出し、研磨
- 14 各作品の仕上げ、研磨
- 15 レポート作成、合評

受講上の注意 筆記具とスケッチブックを持参してください。作業時は汚れても良い服装で、燃えにくい綿などの作業着を着用の事。ガラス破片による怪我防止のため、サンダル履き禁止。

特記事項

教員名 加藤 涼子 **科目名** モデル制作

教員実務経験 ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。

授業目的と到達目標 金属・樹脂・木・皮それぞれの扱い方・切断・接着・着色・組み立てなど様々な素材に触れ制作を通して性質や特徴を体験し学びます。

授業概要 異素材とのデザインやバランスを考えながら制作から完成までの工程を学びます。

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント配布

参考 URL

授業計画(予定)

- 16 課題説明・素材、加工方法について(デザイン・図面制作)
- 17 課題① 真鍮カードケース(切断・透かし)
- 18 課題① 真鍮カードケース(透かし・折り曲)
- 19 課題① 真鍮カードケース(溶接・削り)
- 20 課題① 真鍮カードケース(磨き)
- 21 課題① 真鍮カードケース(組立・仕上)
- 22 課題② 樹脂ブローチ(デザイン・原型作り・切断)
- 23 課題② 樹脂ブローチ(原型作り・削る)
- 24 課題② 樹脂ブローチ(研磨・仕上・ゴム型埋没)
- 25 課題② 樹脂ブローチ(ゴム型へ注入・複製作り)
- 26 課題② 樹脂ブローチ(ゴム型へ注入・複製作り)
- 27 課題② 樹脂ブローチ(複製研磨・仕上・金具取付)
- 28 課題③ 木工細工(木材カット・削る)
- 29 課題③ 木工細工(削る・仕上)
- 30 課題④ 革細工(皮革の説明・手工芸作業・組立)

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用

特記事項

教員名 原田 昌幸 **科目名** 材料演習

教員実務経験 現代美術作家「原田要」として作品発表を行ってきた経験を活かし、表現における材料の意味と役割について深く指導して行きます。

授業目的と到達目標 絵画に限らず、どのような表現手段においても、それぞれに合った材料が必要であり、逆に材料によって表現内容が変化する。美術史においても、描かれる内容の変化よりも、何で描くのかという描画材の歴史でもある。この授業では大きく分けて平面課題と立体課題の2種類に分かれるが、平面課題においては蜜蝋画とフレスコ画という古典技法を体験する。それぞれ顔料から自分の手で絵の具を作るところから始めることにより、描くということの点を見つめ直す。立体課題においては、自然木を素材に彫刻刀で彫り進めていく。最初に何を彫るかは考えず、木

授業概要

成績評価方法・基準 作品 80% 態度 20%

教科書 なし

参考書・参考文献 必要に応じてプリントなどを配布する

参考 UR

授業計画(予定)

- 1 オリエンテーション、絵具について
- 2 エンコスティック 1 蜜蝋による彩色技法について学ぶ
- 3 エンコスティック 2 蜜蝋に顔料を混ぜて彩色
- 4 エンコスティック 3 完成
- 5 フレスコ画 1 古典技法であるフレスコ画について学ぶ
- 6 フレスコ画 2 下地を作成する
- 7 フレスコ画 3 漆喰下地を作り描画する
- 8 手の中のかたち 1 石研で手をかたどる
- 9 手の中のかたち 2 かたどった石膏を磨いて良い形にする
- 10 触り心地のいいかたち 1 木を素材に彫刻刀で彫っていく
- 11 触り心地のいいかたち 2 木の中から良い形を探りながら彫り進める
- 12 触り心地のいいかたち 3 部分を大切にしながら彫り進める
- 13 触り心地のいいかたち 4 全体のつながりを意識して彫り進める
- 14 触り心地のいいかたち 5 表面を磨いて完成に近づける
- 15 触り心地のいいかたち 6 ワックスをかけて完成

受講上の注意 本演習は、長い時間をかけて行うものと、短時間で完成させなければいけないものの両方を含みます。フレスコ画など、その時間内で行わないと完成できないものもあるので、授業時間には遅れないようにしてください。

特記事項

教員名 森 慎司 **科目名** テンペラ技法演習

教員実務経験 主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。

授業目的と到達目標 テンペラ油彩混合技法画のための基底材・下地処法技術の修得。古典絵画技法に必須の知識と新画材の用法の修得。作品制作過程における発想展開方法の理解と修得。

授業概要 有色下地によるデッサンと、制作工程を意識した写実的多階調傾向のテンペラ画制作を行う。一般的な油彩技法と手順工程の違う伝統的手法で制作にとりくむ

成績評価方法・基準 課題作品の提出 85% 平素の受講姿勢と学習意欲 15%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 卵テンペラ及び混合技法の歴史・用法・効果の概説
- 2 下地の制作
- 3 インプリミトゥーラと転写技法、ハッチング
- 4 デトランプ技法による作品制作 1
- 5 デトランプ技法による作品制作 2
- 6 卵テンペラ ハッチング技法による作品制作 1
- 7 卵テンペラ ハッチング技法による作品制作 2
- 8 卵テンペラ ハッチング技法による作品制作 3
- 9 卵テンペラ ハッチング技法による作品制作 4
- 10 卵テンペラ ハッチング技法による作品制作 5
- 11 テンペラ油彩混合技法による作品制作 1
- 12 テンペラ油彩混合技法による作品制作 2
- 13 テンペラ油彩混合技法による作品制作 3
- 14 テンペラ油彩混合技法による作品制作 4
- 15 テンペラ油彩混合技法による作品制作 5

受講上の注意 技法上の目的と制約から、制作作品のスタイルに条件があります。授業中に述べますので注意してください。

特記事項

教員名 加藤 涼子 **科目名** メタルアート演習

教員実務経験 ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。

授業目的と到達目標 作品テーマを熟考し、意味やメッセージを作品に投影する為の考えを学習します。これまでに学んできた技術や知識をもとに設計したデザインを限られた制作期間内で効率よく制作する。

授業概要

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント配布

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 卒業制作の為の企画テーマを考え・表現方法を検討・資料チェック
- 2 デザイン画・図面制作・完成予想図・実寸図面の作成・サンプル作り
- 3 デザインに基づいた作品の制作
- 4 デザインに基づいた作品の制作
- 5 デザインに基づいた作品の制作
- 6 デザインに基づいた作品の制作
- 7 デザインに基づいた作品の制作
- 8 デザインに基づいた作品の制作 中間チェックと検証・変更や追加を検討
- 9 デザインに基づいた作品の制作
- 10 デザインに基づいた作品の制作
- 11 デザインに基づいた作品の制作
- 12 デザインに基づいた作品の制作
- 13 デザインに基づいた作品の制作
- 14 展示環境の作成
- 15 展示環境の作成・合評

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

教員名 加藤 涼子 **科目名** マテリアル演習

教員実務経験 ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。

授業目的と到達目標 日本の伝統工芸技術のひとつ「木目金」の地金作りを体験することで素材の重要性やデザインに繋げる感覚を学びます。

授業概要 木目金を地金から作る工程を学び、基礎技術の習得と応用表現を展開します

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント配布

参考 URL

授業計画(予定)

- 31 課題説明・作業工程、加工方法について・素材の準備
- 32 課題① 木目金地金作り(下処理・加熱融合)
- 33 課題① 木目金地金作り(圧縮・圧着)
- 34 課題① 木目金地金作り(延し加工)
- 35 課題② 木目金と木工のアクセサリー(デザイン・図面制作)
- 36 課題② 木目金と木工のアクセサリー(希少木の加工・切断・削る)
- 37 課題② 木目金と木工のアクセサリー(彫刻・仕上)
- 38 課題② 木目金と木工のアクセサリー(枠制作・切断・削る)
- 39 課題② 木目金と木工のアクセサリー(ロウ付・研磨・仕上)
- 40 校外学習(神戸国際宝飾展)宝飾業界の実際を見て学ぶ
- 41 課題③ 木目金の地金を使ったアクセサリー(デザイン・図面制作)
- 42 課題③ 木目金の地金を使ったアクセサリー(切断・削る)
- 43 課題③ 木目金の地金を使ったアクセサリー(ロウ付・削る)
- 44 課題③ 木目金の地金を使ったアクセサリー(研磨)
- 45 課題③ 木目金の地金を使ったアクセサリー(仕上)

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用

特記事項

教員名 秋永 邦洋 **科目名** クラフトデザイン

教員実務経験 クラフトデザインに関して、陶芸作家の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 やきものの産業的側面における図案や固面の重要性を理解し、基礎的な製図技術と量産性も視野に入れた成形技術の習得を目的とする。

授業概要 基礎的な製図技術と泥漿鑄込みによる作品制作を学習する。

成績評価方法・基準 出席状況、授業態度 70% 提出課題の評価 30%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 授業計画説明 クラフト及びプロダクトデザインについて
- 2 製図の基礎練習(平面図法、正投影図法)
- 3 墨産陶磁器の装飾
- 4 マグカップの製図①
- 5 マグカップの製図②
- 6 課題「泥漿鑄込みによるカップ」 泥漿鑄込み成形の説明
- 7 原型制作
- 8 石膏型取り
- 9 課題「泥漿鑄込みによるオブジェ」 アイデアスケッチ
- 10 原型制作
- 11 原型制作
- 12 石膏型取り
- 13 石膏型取り
- 14 石膏型取り
- 15 泥漿の調整

受講上の注意 授業開始時に課題や作業の説明を行うので、遅刻しないこと。●6週目以降は実習形式で授業を行うので、汚れても良い作業服や作業靴を用意することが望ましい。

特記事項

教員名 大原 千尋 **科目名** 装飾表現

教員実務経験 陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 1年生で習得した手捻り技法の発展を試みる。立方体など幾何形体から様々な形態を制作し造形力の向上を目標とします。

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 課題の評価 50%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 手捻り(立方体)
- 2 手捻り(立方体)の続き
- 3 手捻り(立方体)の続き
- 4 手捻り(立方体)の仕上げ
- 5 手捻り(底のない形)
- 6 手捻り(底のない形)の続き
- 7 手捻り(底のない形)の続き
- 8 手捻り(底のない形)の仕上げ
- 9 タタラ(立方体)
- 10 タタラ(立方体)の続き
- 11 タタラ(立方体)の続き
- 12 タタラ(立方体)の仕上げ
- 13 装飾
- 14 施釉 焼成
- 15 合評

受講上の注意 遅刻欠席しないこと。作業しやすい服装で受講すること。

特記事項

教員名 森 慎司 **科目名** デッサン

教員実務経験 主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。

授業目的と到達目標 形の理解を深めることで立体と空間を把握し、デッサン力を養うとともに写実的表現力を身につける。

授業概要 テーマに従った鉛筆による課題制作

成績評価方法・基準 課題作品の提出 85% 平素の受講態度と学習意欲 15%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス 課題1 グレースケールをつくる
- 2 課題2 形のなりたち1 箱型を考える
- 3 課題3 形のなりたち2 楕円を書いてみる
- 4 課題4 形のなりたち3 円筒(円柱)のしくみ
- 5 課題5 形のなりたち4 球の構造を考える
- 6 課題6 形のなりたち5 円錐のなりたちを知り、りんごを描く
- 7 課題7 形のなりたち6 側円柱の考え方
- 8 課題8 形のなりたち7 遠近法を理解する
- 9 課題9 形の組み合わせ1 石ころの相貫体のしくみ
- 10 課題10 形の組み合わせ2 紙コップとつみ木から空間を考える
- 11 課題11 形の組み合わせ3 木槌と本
- 12 課題12 質感表現1 金属と布
- 13 課題13 質感表現2 ガラスと金属
- 14 課題14 質感表現3 金属と木と布
- 15 課題15 質感表現4 布とガラス

受講上の注意 毎回作品提出のため欠席が重なると評価が下がることがあります。

特記事項

教員名 本庄 剛・池田 高広 **科目名** 美術基礎実習

教員実務経験 (本庄)平成14年3月東京芸術大学大学院修了在校時から現在に至るまで作家活動を継続。(池田)美術家として個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。

授業目的と到達目標 絵画・版画の技術的な基礎知識と制作における考え方を知る。

成績評価方法・基準 受講姿勢 10% 作品評価・理解度 90%

教科書 なし。必要に応じてプリント等を配布し使用する。

参考書・参考文献 なし。

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス 課題説明教材の表現技法の研究、制作の計画
- 2 絵画実習 課題1 静物画 作品 F20 号 下絵の制作
- 3 課題1 静物画 作品 F20 号 描画技法(グリザイユ)にて制作する。
- 4 課題1 静物画 作品 F20 号 描画技法(グリザイユ)にて制作する。
- 5 課題1 静物画 作品 F20 号 下描き彩色にて表現
- 6 課題1 静物画 作品 F20 号 中描き彩色にて表現
- 7 課題1 静物画 作品 F20 号 上描き彩色にて表現
- 8 課題1 静物画 作品 F20 号 仕上げ彩色にて表現合評
- 9 版画実習 凹版 アルミ版エッチング(線の粗密で表現する) アイデアスケッチ
- 10 凹版 アルミ版エッチング 製版→刷り
- 11 孔版 シルクスクリーン 2 版 2 色刷り アイデアスケッチ
- 12 孔版 シルクスクリーン 1 版目製版→刷り→版の再生
- 13 孔版 シルクスクリーン 1 版目製版→刷り→版の再生
- 14 平版 ウォーターレスリトグラフ アイデアスケッチ→描画→製版
- 15 平版 ウォーターレスリトグラフ 刷り 合評

受講上の注意 汚れてもよい服装・エプロンなど用意のこと。段階的に学習を行うので、遅刻・欠席が無いようにする。

特記事項

教員名 森 慎司・吉田真紀子 **科目名** 美術基礎実習

教員実務経験 (森)主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。(吉田)版画作家としての作品制作や発表の経験を基に、版での作品制作の楽しさを伝えます。

授業目的と到達目標 絵画・版画の技術的な基礎知識と制作における考え方を知る。

成績評価方法・基準 受講姿勢 10% 作品評価・理解度 90%

教科書 なし。必要に応じてプリント等を配布し使用する。

参考書・参考文献 なし。

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス 課題説明 教材の表現技法の研究、制作の計画
- 2 絵画実習 課題1 静物画 作品 F20 号 下絵の制作
- 3 課題1 静物画 作品 F20 号 描画技法(グリザイユ)にて制作する。
- 4 課題1 静物画 作品 F20 号 描画技法(グリザイユ)にて制作する。
- 5 課題1 静物画 作品 F20 号 下描き彩色にて表現
- 6 課題1 静物画 作品 F20 号 中描き彩色にて表現
- 7 課題1 静物画 作品 F20 号 上描き彩色にて表現
- 8 課題1 静物画 作品 F20 号 仕上げ彩色にて表現合評
- 9 版画実習 凹版 アルミ版エッチング(線の粗密で表現する) アイデアスケッチ
- 10 凹版 アルミ版エッチング 製版→刷り
- 11 孔版 シルクスクリーン 2版2色刷りアイデアスケッチ
- 12 孔版 シルクスクリーン 1版目製版→刷り→版の再生
- 13 孔版 シルクスクリーン 1版目製版→刷り→版の再生
- 14 凸版 リノカット アイデアスケッチ→描画→製版
- 15 凸版 リノカット 刷り 合評

受講上の注意 汚れてもよい服装・エプロンなど用意のこと。段階的に学習を行うので、遅刻・欠席が無いようにする。

特記事項

教員名 加藤 涼子・大原 千尋 **科目名** 工芸基礎実習

教員実務経験 (加藤)ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指蔚します。(大原)陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 【アクセサリー】基本的な金属加工技術を用いて金属の様々な表現方法を体験していきます。素材の特徴を理解し適した技法を用い、一連の工程を通して硬い金属を使って創造する物づくりの楽しさに触れて欲しい。【陶芸】基本的な成形方法と焼成プロセスを知り素材の特性を学ぶ。陶器づくりの、基本的な行程を体験する。素材の特性や技法と表現の関わりを理解する。自らの手で創作する事で、物づくりの楽しさを知る。

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10% 出席率 40%

教科書

参考書・参考文献 プリント配付

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス アクセサリーと陶芸 真鍮キーホルダー 硬い金属加工体験/刻印
- 2 銅箔レリーフと鉄筆作り 金属箔を使った柔らか金属加工体験/道具作り/削る/磨く
- 3 真鍮シューホーン 切る/なます/削る/当て金を使った曲げ加工/叩く/磨く
- 4 洋白ピンバッチ 切る/なます/漿/溶接/削る/磨く
- 5 錫の皿 溶かす/鋳造/切る/削る/磨く
- 6 真鍮コイントレイ 切る/透かす/削る/なます/磨く
- 7 シルバー3連リング 切る/叩く/曲げる/溶接/削る/磨く
- 8 講評会
- 9 土練りと玉作り 500gの土のかたまりから、茶碗を作る。(信楽土)
- 10 土練りと紐づくり 紐づくりで、サラダボールを作る。(直径15センチ/赤合わせ土)
- 11 土練りと板作り 前固のマグカップの仕上げ「マイアトリエ」のプレート(150×300)(色化粧土で装飾)
- 12 電動ろくろを体験する。(ロクロ成形でぐい飲みを)
- 13 ろくろ仕上げと自由制作(紐づくり)
- 14 葉掛け並びに自由制作(紐づくり)
- 15 釉葉掛け並びに講評会

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。可能であればエプロン着用での受講をお勧めします。濡れた手や作品を拭くためのタオル持参、筆記用具

特記事項

教員名 桜井 智裕・秋永 邦洋 **科目名** 工芸基礎実習

教員実務経験 (秋永)陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。(桜井)造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導します。

授業目的と到達目標 【アクセサリー】基本的な金属加工技術を用いて金属の様々な表現方法を体験していきます。素材の特徴を理解し適した技法を用い、一連の工程を通して硬い金属を使って創造する物づくりの楽しさに触れて欲しい。 【陶芸】基本的な成形方法と焼成プロセスを知り素材の特性を学ぶ。陶器づくりの、基本的な行程を体験する。素材の特性や技法と表現の関わりを理解する。自らの手で創作する事で、物づくりの楽しさを知る。

成績評価方法・基準 課題の取り組み 30% 退出課題の評価 70%

教科書

参考書・参考文献 必要に応じて随時配付

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス アクセサリーと陶芸 【アクセサリー】課題説明「真鍮・キーホルダー」基本的なヤスリの使い方を学ぶ
- 2 「銅薄板・レリーフ」半立体による表現を学ぶ、ヘラ押し
- 3 「真鍮・シューホーン(靴ベラ)」金槌やタガネによる、鋸目模様
- 4 「洋白・ピンバッチ」ヤスリによる削り出し、はんだ付け
- 5 「錫・菓子皿」鋳造による金属形成、鋸目模様
- 6 「錫・菓子皿」の続きヘラがけ
- 7 「真鍮・コイントレー」糸鋸による透かし模様
- 8 「銀線・三連リング」指輪制作、鋸目模様、ロウ付け
- 9 土練りと玉作り 500gの土のかたまりから、茶碗を作る。(信楽土)
- 10 土練りと紐づくり 紐づくりで、サラダボールを作る。(直径15センチ/赤合わせ土)
- 11 土練りと板作り 前固のマグカップの仕上げ「マイアトリエ」のプレート(150×300)(色化粧土で装飾)
- 12 電動ろくろを体験する。(ロクロ成形でぐい飲みを)
- 13 ろくろ仕上げと自由制作(紐づくり)
- 14 薬掛け並びに自由制作(紐づくり)
- 15 釉薬掛け並びに講評会

受講上の注意 作業用の服装で、筆記用具は毎回持参してください。実習中は、スリッパやサンダル履きは不可です

特記事項

教員名 森 慎司 **科目名** 専門基礎実習 I

教員実務経験 主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。

授業目的と到達目標 油彩画表現の基本的・代表的各ジャンルの構図法、遠近法を習得し、自己表現のスタートとしての描画力を養う。

授業概要 テーマごとの課題制作 ●モチーフ(人物・静物)を観察しながら描画する。写生を主とした作品づくり。●構造にもとづいた作品制作

成績評価方法・基準 課題作品の評価 85% 平素の受講姿勢と学習意欲 15%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題1 人物画(自画像)作品 F20号
- 2 課題2 人物画(自画像)作品 F20号
- 3 課題2 人物画(自画像)作品 F20号 合評
- 4 課題3 静物画作品 F20号
- 5 課題3 静物画作品 F20号
- 6 課題3 静物画作品 F20号 合評
- 7 課題4 風景画 作品 F30号
- 8 課題4 風景画 作品 F30号
- 9 課題4 風景画 作品 F30号
- 10 課題5 風景画 作品 F30号 合評
- 11 課題5 自画像(具象)作品 F50号 キャンバス張り エスキース
- 12 課題6 自画像(具象)作品 F50号 キャンバス張り エスキース
- 13 課題6 自画像(具象)作品 F50号 キャンバス張り エスキース
- 14 課題7 自画像(具象)作品 F50号 キャンバス張り エスキース
- 15 課題7 自画像(具象)作品 F50号 合評

受講上の注意 油彩画制作なので、汚れが落ちにくいことがあります、服装に留意すること
特記事項

教員名 吉田 真紀子 **科目名** 専門基礎実習 I

教員実務経験 銅版画家としての経験をもとに、技術指導をします。

授業目的と到達目標 凹版技法による表現方法の習得。銅版画の技法を身につけ、自らのイメージを作品にすることを目標とする。

授業概要 銅版画による作品制作。授業は一過程ごとにプリントと参考作品を使って、説明しながら制作を進めていく。凹版の技法、銅版画による制作を行う。授業初日にガイダンス（凹版について）を行う。

成績評価方法・基準 作品と技法の理解、習得度を総合的に評価 90% 出席、課題の取り組みなどの受講姿勢 10%

教科書

参考書・参考文献 プリント、参考資料など

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 直刻法（メゾチント）メゾチントの技法説明、製版準備をする、下絵を描く
- 2 下絵を転写して製版する、印刷（試し刷り）をする
- 3 試し刷りを見ながら修正をする、印刷（本刷り）をして完成
- 4 腐刻法1（単色刷り）技法説明（エッチング+アクアチント）、製版準備をする、下絵を描く
- 5 下絵を転写して、ラインエッチングの製版を行う
- 6 アクアチント製版を行う
- 7 試し刷りをする
- 8 試し刷りを見ながら修正をする、本刷りをして完成
- 9 腐刻法2（二版多色刷り）技法説明（二版を使っての印刷方法について）、製版準備をする、下絵を描く
- 10 一版目の製版を行う
- 11 二版目の製版を行う
- 12 試し刷りをする
- 13 試し刷りを見ながら修正をする
- 14 本刷りをして完成
- 15 版画特有のサインや限定部数についての説明、作品にサインを入れる、合評を行う

受講上の注意 自分の作品制作という意識を持って積極的に取り組むこと

特記事項

教員名 加藤 涼子 **科目名** 専門基礎実習 I

教員実務経験 ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。

授業目的と到達目標 基本的な技法を深く追求し本格的な工芸技法へ繋げる為の基礎学習を学びます。

授業概要 切断/削る/なます/溶かす/溶接/穴あけ/打刻/研磨など、基礎的な技術技法を丁寧に深く学びます。

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント配布

参考 URL

授業計画(予定)

46 工具・道具の説明。加工方法・お手入れ方法 糸鋸の練習課題 作業手順の説明

47 課題① 糸鋸の練習課題

48 課題① 糸鋸の練習課題

49 課題② 板材を使った指輪 デザイン制作 切断

50 課題② 板材を使った指輪 研磨 仕上げ

51 課題③ 板材を使った透かしペンダント デザイン制作 切断

52 課題③ 板材を使った透かしペンダント 切断 ロウ付け 研磨

53 課題③ 板材を使った透かしペンダント ロウ付け 研磨

54 課題③ 板材を使った透かしペンダント 仕上

55 課題④ 鑿の作成(道具作り)

56 課題④ 鑿の作成(道具作り)

57 課題⑤ 和彫りの練習課題

58 課題⑤ 和彫りのペンダント(デザイン・切断)

59 課題⑤ 和彫りのペンダント(彫り)

60 課題⑤ 和彫りのペンダント(ロウ付け・研磨・仕上)

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用

特記事項

教員名 秋永 邦洋 **科目名** 専門基礎実習 I

教員実務経験 陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 粘土素材の性質や、施釉、焼成など陶芸の基本的な制作工程を理解し、基礎技術の習得を目標とする。

授業概要 板作りと石膏型の基本的な成形技術を中心に学習する。

成績評価方法・基準 課題への取り組みと進捗・受講姿勢などをもとに総合評価 100%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 授業計画説明 課題「手びねりによる円筒」 課題説明、粘土の調整(信楽土)、成形
- 2 装飾、施釉
- 3 課題「手びねりによる角柱」 課題説明、成形
- 4 装飾、施釉
- 5 課題「石膏一面型による皿」 課題説明、アイデアスケッチ
- 6 原型制作 型成形に適した形の工夫、抜け勾配
- 7 石膏型取り
- 8 課題「石膏二面型による立体」
- 9 原型制作 形の単純化、仕上げ
- 10 石膏型取り
- 11 成形(信楽土)
- 12 成形(赤合せ土)
- 13 装飾、施釉
- 14 施釉、焼成
- 15 合評

受講上の注意 作業しやすい服装で受講すること。遅刻欠席しないこと。

特記事項

教員名 森 慎司 **科目名** 専門基礎実習Ⅱ

教員実務経験 主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。

授業目的と到達目標 油彩画表現の基本的・代表的各ジャンルの構図法、遠近法を習得し、自己表現のスタートとしての描画力を養う。

授業概要 テーマごとの課題制作●モチーフ(人物・静物)を観察しながら描画する。写生を主とした作品づくり。●構造にもとづいた作品制作

成績評価方法・基準 課題作品の評価 85% 平素の受講姿勢と学習意欲 15%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題1 人物画(自画像)作品 F20号
- 2 課題2 人物画(自画像)作品 F20号
- 3 課題2 人物画(自画像)作品 F20号 合評
- 4 課題3 静物画作品 F20号
- 5 課題3 静物画作品 F20号
- 6 課題3 静物画作品 F20号 合評
- 7 課題4 風景画 作品 F30号
- 8 課題4 風景画 作品 F30号
- 9 課題4 風景画 作品 F30号
- 10 課題5 風景画 作品 F30号 合評
- 11 課題5 自画像(具象)作品 F50号 キャンバス張り エスキース
- 12 課題6 自画像(具象)作品 F50号 キャンバス張り エスキース
- 13 課題6 自画像(具象)作品 F50号 キャンバス張り エスキース
- 14 課題7 自画像(具象)作品 F50号 キャンバス張り エスキース
- 15 課題7 自画像(具象)作品 F50号 合評

受講上の注意 油彩画制作なので、汚れが落ちにくいことがあります、服装に留意すること
特記事項

教員名 池田 高広 **科目名** 専門基礎実習Ⅱ

教員実務経験 美術家として個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。

授業目的と到達目標 版画の基礎的な知識と技能を習得する。孔版の体験を通し、自らの版画技法について方向性を自覚する。

授業概要 孔版シルクスクリーンを中心とした版画技法を用いて作品制作を行う。

成績評価方法・基準 技能習得と受講姿勢 30% 提出作品による評価 70%

教科書

参考書・参考文献 プリント、参考資料など

参考 URL

授業計画(予定)

1 2 3

シルクスクリーン(カッティング法) 【9月】赤い遮光性のフィルムをカッターナイフで切り込み、版画原稿を制作する。特徴はイメージの単純化を技法的に促されること。カッターナイフを使用した手作業ならではの線の味わいを知る。

4 5 6 7

シルクスクリーン(ドローイング法) 【10月】トレーシングペーパーにダーマグラフ黒などで描写したり、白い用紙に鉛筆で描画。モノクロコピーしたものが原稿になります。描いた明暗の調子が強調され、そのまま印刷できます。

8 9 10

シルクスクリーン(写真製版法) 【11月】自らが撮影した写真などをパソコンに画像をフォトショップで網分解。写真を点の集合に変換再現します。その際の点(丸)の大きさは大小変えることができ、それ自体の配列の不思議さを味わえる作品を生み出すことができます。3原色と黒の4版刷りが色再現の基本です。

11 12

シルクスクリーン(モノタイプ) 【12月】モノとは一つと言う意味である。版画の複数性に反していますが、一枚しかできない版画の味わいを体験できる技法です。数種類用意しています版に直接鉛筆・クレヨンで描くこれを透明インクで刷りおろす。

13 14 15

シルクスクリーン(その他の技法・形成物に印刷する) 【1月】版面に水性描画材を用いて描く・乾燥後に油性インクで印刷。その後印刷物を石、木など固形物に転写させオブジェクトな作品として完成させる。

受講上の注意 道具の扱い、インクの性質上後片付けの時、守って欲しいルールがあります。自分が授業を始めた机の状態に戻して退出してください。

特記事項

教員名 加藤 涼子 **科目名** 専門基礎実習 II

教員実務経験 ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。

授業目的と到達目標 鋳造についての基本技術を学習し作品表現の幅を広げます。

授業概要 ロストワックス・キャスティングについての知識と作業工程を学び、基礎的なキャスティング技術を習得します。

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント配布

参考 URL

授業計画(予定)

- 61 鋳造機や周辺機器と作業手順の説明・キャスト練習問題
- 62 課題① WAX リング(アイデアスケッチ・図面作成)
- 63 課題① WAX リング原型作成 原型制作についての学習
- 64 課題① 石膏埋没 耐火石膏・脱泡気についての学習
- 65 課題① 脱蠟・鋳造 脱蠟窯・鋳造機についての学習
- 66 課題① 研磨・仕上げ 研磨・仕上げについての学習
- 67 課題② WAX ブローチ(アイデアスケッチ・図面作成・切断・削)
- 68 課題② WAX ブローチ(彫・彫仕上・石膏埋没)
- 69 課題② WAX ブローチ(鋳造・研磨・中仕上)
- 70 課題② WAX ブローチ(ブローチ金具作り・ロウ付・仕上)
- 71 課題③ 球体ペンダント(アイデアスケッチ・図面作成・切断・削)
- 72 課題③ 球体ペンダント(彫・削)
- 73 課題③ 球体ペンダント(彫・削)
- 74 課題③ 球体ペンダント(鋳造・研磨・中仕上)
- 75 課題③ 球体ペンダント(パーツロウ付・仕上)

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用

特記事項

教員名 大原 千尋 **科目名** 専門基礎実習Ⅱ

教員実務経験 陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 素材の特質・成形技法を学び、何故、装飾するのかを考える。ひもづくり・板作り・さらに電動ろくろの基本的な扱いも習得する

授業概要 「ひもづくり・板作り・電動ろくろ」で形成した作品に装飾を施す。

成績評価方法・基準 出席状況 50% 課題提出状況 25% やる気 20%
片付け(掃除) 5%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ひもづくり+板作り成形 「一輪挿し」 10×7×15cm 信楽土
- 2 「一輪挿し」の仕上げ 印花
- 3 ひもづくり成形 「玉子の形」 高さ 20cm 赤合せ土
- 4 玉子の形の仕上げ掻き落とし
- 5 施釉と焼成
- 6 電動ろくろの基本的な扱い
- 7 電動ろくろによる「汲み出し茶碗」
- 8 電動ろくろによる「汲み出し茶碗」
- 9 電動ろくろによる「汲み出し茶碗」
- 10 電動ろくろによる「汲み出し茶碗」(削り)
- 11 電動ろくろによる「汲み出し茶碗」(削り)
- 12 電動ろくろによる「小鉢か飯茶碗」
- 13 電動ろくろによる「小鉢か飯茶碗」(削り)
- 14 施釉と焼成
- 15 合評

受講上の注意 作業しやすい服装で受講すること。遅刻欠席しないこと。

特記事項

教員名 森村 誠 **科目名** 専門実習 I

教員実務経験 油彩画制作の技術・物事の捉え方など、美術作家としての経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 一年生の基礎的内容と比べ、二年生は応用的内容と位置づけ、より専門的知識と実技能力を取得することを目的とする。将来の各自の創作を視野に入れた構想力、センスを養う。

成績評価方法・基準 出席率 50% 課題への評価(アイデア・センス) 15% 課題への評価 15% 作品態度・姿勢 20%

教科書 なし

参考書・参考文献 講師が持参する

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題1 シュール画 作品 F50号 シュール画のエスキース キャンバスの調達をする。
- 2 課題1 シュール画 作品 F50号 キャンバスに制作する。初期の下絵を作成する
- 3 課題1 シュール画 作品 F50号 彩色描画、表現技法の研究
- 4 課題1 シュール画 作品 F50号 彩色描画、表現技法の研究
- 5 課題2 抽象画 作品 180×90cmの板版 抽象画のエスキース 画面に合わせた加工を行なう。下地
- 6 課題2 抽象画 作品 180×90cmの板版 抽象画のエスキース 初期の下絵を作成する。
- 7 課題2 抽象画 作品 180×90cmの板版 彩色描画、表現技法の研究
- 8 課題2 抽象画 作品 180×90cmの板版 彩色描画、表現技法の研究合評
- 9 課題3 自画像 作品 F100号 自画像のエスキース キャンバスの調達をする。
- 10 課題3 自画像 作品 F100号 キャンバスに制作する。初期の下絵を作成する。
- 11 課題3 自画像 作品 F100号 彩色描画表現技法の研究
- 12 課題3 自画像 作品 F100号 彩色描画表現技法の研究
- 13 課題3 自画像 作品 F100号 彩色描画表現技法の研究
- 14 課題3 自画像 作品 F100号 彩色描画表現技法の研究
- 15 課題3 自画像 作品 F100号 合評

受講上の注意 積極的に作成し、完成を目指し、参加すること。

特記事項

教員名 吉田 真紀子 **科目名** 専門実習 I

教員実務経験 版画作家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、展覧会のための額装や展示方法、案内状の作り方などを指導します。

授業目的と到達目標 展覧会の企画と作品制作。これらの準備を一連の流れの中で立体的にコミュニケーションできる能力を養う。

授業概要

成績評価方法・基準 作品 90% 受講姿勢 10%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント、参考資料など

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス
- 2 展覧会日程を検討・決定
- 3 展覧会チラシについて学ぶ。
- 4 案内状について学ぶ。
- 5 ポスターを作るなら、どんな情報が必要かを考える。
- 6 作品撮影の重要性を知る
- 7 作品撮影
- 8 ポートフォリオ冊子の企画
- 9 チラシデータ作成・印刷
- 10 案内状データ作成・印刷
- 11 ポスターデータ作成
- 12 ポスター・印刷依頼
- 13 案内状発送
- 14 作品搬入・合評
- 15 作品搬出・まとめ

受講上の注意 額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要である。計画的な作業を心がける。

特記事項 各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品] 製版・印刷の作業実習が含まれている。

教員名 加藤 涼子 **科目名** 専門実習 I

教員実務経験 ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。

授業目的と到達目標 量産するために適した形をデザインし、成形の仕方から元型作り量産に至るまでの過程を学びます。ロストワックスとの作業の違い、他の技法との比較でメリット・デメリットを考える力を身に付けます。

授業概要

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書

参考書・参考文献 プリント配布

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題①デザイン制作 連続パターンを用いた課題の説明とデザインについての学習
- 2 デザインチェック・原型制作 図面に基づいて作る原型を作る
- 3 原型制作 WAX原型作成について
- 4 原型制作・石膏埋没 石膏埋没について
- 5 鋳造・仕上げ 鋳造作業と仕上げについて
- 6 仕上げ・ゴム型作り ゴム型用に金型原型を作成、ゴム型について
- 7 ゴム型取り・注入 ゴム型の切開について、注入作業について
- 8 WAX 注入・組み立て・石膏埋没複数の石膏埋没作業について
- 9 鋳造・組み立て鋳造作業と仕上げについて
- 10 仕上げ 鋳物の仕上げ作業
- 11 研磨・組み立て 組み立てと仕上げについて
- 12 課題②応用デザイン・制作 応用について
- 13 必要なパーツの追加・石膏埋没
- 14 鋳造・仕上げ
- 15 仕上げ 合評

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

教員名 山村 幸則 **科目名** 専門実習 I

教員実務経験 美術家として国内外で数多くの滞在制作、展覧会プロジェクト、ワークショップ等に取り組んでいる経験を元に陶芸の技法と表現を指導します。

授業目的と到達目標 「やきもの」を主に機能性と量産性の面から考察し制作する。尚且つ、より自由な発想で生活への積極的な提案を試みる。単に技法・技術の習得のみにとどまらず個々の潜在的な興味や趣味趣向を引き出し自己表現力の向上を目標とする。

授業概要

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 課題姿勢 50%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 土練り(荒練り・菊練り)～電動ろくろの操作方法について、準備、ろくろの使用、後片付けまで
- 2 土練り～電動ろくろの使用、成形の基本技術(土殺し、土取り、成形、糸切り)を繰り返す
- 3 蕎麦猪口について調査研究(蕎麦猪口の歴史、器としての役割、種類・形・意匠などを調査、研究)発表各自、蕎麦猪口アイデアスケッチ、デザイン(案)、製図(成形時と焼成後の収縮率について)発表
- 4 ろくろ成形に使用する道具類(木ゴテ・トンボ・切り糸・なめし革・削りカンナ)の制作
- 5 目標とする形をイメージし、ろくろ成形の基本技術を繰り返し、修練を積む
- 6 量産方法→高台の成形、削りの練習(シッタ、トースカン、削りカンナの使用方法) / 粘土の再生(成形→乾燥→再生)を学ぶ
- 7 5客または6客1セットの完成を目標にろくろ成形を繰り返し練習する
- 8 5客または6客1セットの完成を目標に高台の成形、削りを繰り返し練習する
- 9 5客または6客1セットの完成を目標にろくろ成形を繰り返し練習する
- 10 5客または6客1セットの完成を目標に高台の成形、削りを繰り返し練習する
- 11 素焼き(窯道具の使用、蕎麦猪口及び、作品の窯詰め、焼成方法、温度管理について)
- 12 素焼き窯出し(後片付け)絵付け、釉薬掛け(釉薬・顔料・絵の具の使用方を学び)施釉～本焼き
- 13 本焼き窯出し(後片付け)窯出し後、作品の仕上げ(砥石、布ヤスリ、リユーター電動工具の使い方について)～本焼き(還元焼成)窯詰め
- 14 本焼き窯出し(後片付け)窯出し後、作品の仕上げ / 展示方法・計画を熟考→合評に向けて
- 15 合評(作品の試用)・卒業制作について

受講上の注意 遅刻欠席をしないこと。作業しやすい服装で受講すること。筆記用具、スケッチブックを持参のこと。

特記事項

教員名 本庄 剛 **科目名** 専門実習Ⅱ

教員実務経験 平成14年3月東京芸術大学大学院修了 在校時から現在に至るまで作家活動を継続

授業目的と到達目標 2年間の学習の総括としてふさわしい一枚の作品を完成させることを目指します。着想から完成まで、試行錯誤の中で時間をかけてやりとげることが目標とします。

授業概要 自由制作による油彩・アクリル作品制作。後期は卒業制作を課題とするため、技術指導、メンタル指導共に厳しく行う方針です。

成績評価方法・基準 出席率 50% 発想力・アイデア・センス 30% 技術・テクニク 20%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- | | | | | | | |
|----|-----|-------|----|---------|----------------|------------------------|
| 1 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | エスキース | キャンバスの調達をする。 |
| 2 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | エスキース | 制作計画 |
| 3 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | | キャンバスに制作する。初期の下絵を作成する。 |
| 4 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 5 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 6 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 7 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 8 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 9 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 10 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 11 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 12 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 13 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 14 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 15 | 課題1 | 自由制作画 | 作品 | F100号2点 | 作品のプレゼン計画、展示研究 | |

受講上の注意 出席率の低い者は評価しないので各自注意してください。

特記事項

教員名 八木 牧子 **科目名** 専門実習Ⅱ

教員実務経験 ジュエリー 作家の元で修行後、読売新聞社の彫金教室や大阪市立クラフトパークなどで Metal Work の技術を指導する現役彫金作家が指導します。

授業目的と到達目標 卒業制作のテーマを決め、これまでの学習で得た技術・技法を駆使し集大成となる作品制作を行います。(卒業制作)

授業概要 作品制作の視点から適合した表現方法(彫金、鍛金、溶接、ロストワックス等の技法)を選び、今まで学んだ技術や知識を基礎に置き、新しい可能性を求めながら個々のテーマに沿った作品を制作します。

成績評価方法・基準 作品の完成度 50% 課題への取り組み・態度 25% 作品提出率 15% 出席状況 10%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 卒業制作資料収集 アイデアスケッチのチェック
- 2 卒業制作資料収集 アイデアスケッチのチェック
- 3 デザイン決定 図面またはモックアップ(原寸大模型)作り
- 4 デザイン決定 図面またはモックアップ(原寸大模型)作り
- 5 作品制作
- 6 作品制作
- 7 作品制作
- 8 作品制作
- 9 作品制作
- 10 中間チェック
- 11 作品制作 ディスプレイも合わせて制作
- 12 作品制作 ディスプレイも合わせて制作
- 13 作品制作 ディスプレイも合わせて制作
- 14 作品制作 ディスプレイも合わせて制作
- 15 合評

受講上の注意 前期「卒業制作Ⅰ」の Pre(事前)授業で経験し学んだ事を活用し卒業制作に挑んでもらえればと思います。

特記事項

教員名 池田 高広 **科目名** 専門実習Ⅱ

教員実務経験 美術家として個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。

授業目的と到達目標 2学年前期までの版画、専門基礎実習、専門実習で学んだことを総合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要 後期学期末の卒業制作を視野に入れ、展示方法も考察しつつ、現実的に制作可能な作品サイズ、点数などを計画する。

成績評価方法・基準 作品 90% 受講姿勢 10%

教科書

参考書・参考文献 プリント、参考資料等を使用

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス
- 2 後期の制作計画を立案する
- 3 卒業制作の展示を計画する自らのテーマを再認識する。
- 4 作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る。
- 5 緩やかな、試みの時期として10月中旬まで数種類の版を試してみる。
- 6 [作品]・原画制作
- 7 製版・印刷
- 8 [作品]・原画制作
- 9 製版・印刷
- 10 [作品]・原画制作
- 11 製版・印刷
- 12 パネル張り・額装異形パネル等、必要とされれば木部材加工にてパネル製作
- 13 展示方法を吟味する。
- 14 この時期までの作品のポートフォリオを了させる
- 15 作品採点・合評・まとめ

受講上の注意 額装や展示のことまで含め、第三者に見せることが重要であり、計画的な作業を求めます。

特記事項 ※後期専門実習Ⅱは専門実習Ⅳと連携した内容で授業を行う。※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品]製版・印刷の作業実習が含まれている。

教員名 山村 幸則

科目名 専門実習Ⅱ

教員実務経験 美術家として国内外で数多くの滞在制作、展覧会プロジェクト、ワークショップ等に取り組んでいる経験を元に陶芸の技法と表現を指導します。

授業目的と到達目標 既成概念にとらわれない自由な思考に基づく新しい陶表現を追求する。各自のテーマに沿い、皆で意見交換、アイデアの発展を繰り返し、より柔軟な制作の過程を見つける。表現に適した材料の選択を体得する。卒業制作作品の制作。

授業概要

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 課題評価 50%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 各自、夏期休暇中に熟考したテーマに基づく作品の構想、アイデアを、スケッチ、模型等を用い、卒業制作の計画発表と意見交換を行う
- 2 初回、発表した作品の構想を踏まえ、更にアイデアの発展を繰り返し、アイデアスケッチ、模型等の制作を行う
- 3 発展を繰り返して来たアイデアをスケッチ、模型等を用い、卒業制作作品の計画、詳細の発表と意見交換を行う
- 4 各自のテーマに合った成形方法、焼成方法、組み立て、展示方法など、複数案の選択肢を持ちイメージを広げ、比較検討する
- 5 アイデア及び、資料の収集、スケッチ、模型の制作を行い、成形方法を決定し、本格的に制作を開始する
- 6 テストピース、模型の素焼き窯詰め。制作過程において更にアイデアと作品が発展する様、それぞれと話し合いを重ね、制作を継続する
- 7 テストピース、模型の施釉、本焼き窯詰め、本焼き焼成。制作進行状況の中間報告と後半に向けての計画発表を共有する
- 8 各々の制作進行状況に合わせ、他の授業との連携を図りながら、制作を進める制作過程の記録も適宜行う
- 9 各々の制作進行状況に合わせ、他の授業との連携を図りながら、制作を進める制作過程の記録も適宜行う
- 10 各々の制作進行状況に合わせ、他の授業との連携を図りながら、制作を進める制作過程の記録も適宜行う
- 11 素焼き窯出し(後片付け)絵付け、釉薬掛け(釉薬・顔料・絵の具の使用方法を学び)施釉～本焼き、(酸化焼成)窯詰め
- 12 本焼き窯出し(後片付け)窯出し後、作品の仕上げ(砥石、布ヤスリ、リユーター電動工具の使い方について)～本焼き(還元焼成)窯詰め
- 13 本焼き窯出し(後片付け)窯出し後、作品の仕上げ。展示方法・計画の熟考→合評に向けて展示台、額その他、木材、金具などの素材の調達と造作

14 展示方法・展示計画の熟考→合評に向けて制作を振り返り、制作過程記録の編集作業、記録集、作品集の制作

15 合評 卒業制作について

受講上の注意 遅刻欠席をしないこと。作業しやすい服装で受講すること。筆記用具、スケッチブックを持参のこと。

特記事項

教員名 浜本 隆司 **科目名** 専門実習Ⅲ

教員実務経験 担当教員は大きな絵画を中心にオブジェやインスタレーションなどのアート作品の制作を、40年以上続けています。個展や企画グループ展で関西、愛知、東京、そして海外での発表経験が多くありますので、アートの発表現場を通した目で、制作と発表の指導を行なっています。

授業目的と到達目標 ・主題について考察を深める。 ・構想(アイデア ・スケッチ ・下絵)の充実。 ・油彩表現の技術的研究。

授業概要 ①シュール画 ②抽象画 ③自由制作

成績評価方法・基準 主に作品評価(平常点と絵画制作へのスタンス) 70% 出席率 30%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題1 シュール画 作品 F50号 シュール画のエスキース キャンバスの調達をする。
- 2 課題1 シュール画 作品 F50号 キャンバスに制作する。初期の下絵を作成する。
- 3 課題1 シュール画 作品 F50号 彩色描画、表現技法の研究
- 4 課題1 シュール画 作品 F50号 彩色描画、表現技法の研究
- 5 課題1 シュール画 作品 F50号 彩色描画、表現技法の研究
- 6 課題1 シュール画 作品 F50号 合評
- 7 課題2 抽象画 作品 180×90cmの板版 抽象画のエスキース 初期の下絵を作成する。
- 8 課題2 抽象画 作品 180×90cmの板版 彩色描画、表現技法の研究
- 9 課題2 抽象画 作品 180×90cmの板版 合評
- 10 課題3 自画像 作品 F100号 自画像のエスキース キャンバスの調達をする。
- 11 課題3 自画像 作品 F100号 キャンバスに制作する。初期の下絵を作成する。
- 12 課題3 自画像 作品 F100号 彩色描画表現技法の研究
- 13 課題3 自画像 作品 F100号 彩色描画表現技法の研究
- 14 課題3 自画像 作品 F100号 彩色描画表現技法の研究
- 15 課題3 自画像 作品 F100号 合評

受講上の注意

特記事項

教員名 吉田 真紀子 **科目名** 専門実習Ⅲ

教員実務経験 版画家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、展覧会の仕方、ポートフォリオの作り方などを指導します。

授業目的と到達目標 1 学年次の版画、専門基礎実習で学んだことを統合する。自分にとっての重要なテーマを決めそれを実現させる版種を選び制作する。同時に作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要

成績評価方法・基準 作品 90% 受講姿勢 10%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ※前期専門実習Ⅲは専門実習Ⅴと連携した内容で授業を行う。※下記(各回予定)は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品] 製版・印刷の作業実習が含まれている。
ガイダンス
- 2 年間の制作計画を立案する
- 3 前期末の展示を計画する
- 4 自らのテーマを文章にしたり、エスキースに描いたりする
- 5 緩やかな試みの時期として5月末あたりまで数種類の版を試してみる
- 6 作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る
- 7 テーマに沿った版種を決める
- 8 [作品]・原画制作
- 9 製版・印刷
- 10 [作品]・原画制作
- 11 製版・印刷
- 12 展示方法を吟味する。パネル張り・額装
- 13 この時期までの作品のポートフォリオを完了させる
- 14 作品搬入・合評
- 15 作品搬出・まとめ

受講上の注意 額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり、計画的な作業を求めます。

特記事項

教員名 桜井 智裕 **科目名** 専門実習Ⅲ

教員実務経験 造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導していきたいと思えます。

授業目的と到達目標 金工の技法の鍛金(絞り、鍛造)の基本技術の習得。板材や棒材の加工を通して金属素材の特性を知り、作品の表現の幅を広げる。

授業概要

成績評価方法・基準 作品の完成度 95% 平常点 5%

教科書 プリント配布

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題説明・花器(鍛金)のデザイン・アイデアチェック・作品制作
- 2 花器の作品制作(銅板、絞り)
- 3 花器絞り
- 4 花器絞り
- 5 花器絞り・仕上げ打ち
- 6 花器仕上げ打ち・着色・合評
- 7 課題説明・銅ハサミ(鍛造)・デザイン・アイデアチェック・作品制作
- 8 銅ハサミ制作(銅棒絞り)
- 9 銅ハサミ 銅棒絞り
- 10 銅ハサミ 銅棒絞り
- 11 銅ハサミ ヤスリ削り形成・磨き
- 12 銅ハサミ 磨き・着色・合評
- 13 自由課題・アイデアチェック・作品制作
- 14 作品制作
- 15 作品制作・合評

受講上の注意 必ず作業服に着替えて実習を受けてください。また、靴も動きやすく素足が露出していないもの、(ハイヒールやサンダル、ぞうりは不可です) 雑巾又はタオル、筆記用具、作業用の服、工具、スケッチブックは毎回持参してください。

特記事項

教員名 大原 千尋 **科目名** 専門実習Ⅲ

教員実務経験 陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 土という素材の特性を生かす為、陶芸特有の質感やマチエールによる装飾の展開を試みる。あらゆる技法や材料を体験し、各自が自分にあった装飾技法を模索する。

授業概要 1年次に学習した材料演習の結果に基づいて、いろいろなタイルや小品を制作して、さまざまな装飾を試みる。土の装飾、化粧の装飾、釉薬の装飾などを体験し、やがて複合的に自在に使えるようにサポートする。

成績評価方法・基準 出席状況 50% 課題提出状況 25% やる気 20%
片付け(掃除) 5%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス(色土作りなど)
- 2 色土の装飾(中鉢に象嵌)鉢の成形
- 3 鉢の仕上げと装飾(象嵌)
- 4 色土の装飾(セラローラーを使った皿)皿の成形
- 5 皿の仕上げ
- 6 色化粧の装飾(長皿)土による型作りと成形
- 7 皿の仕上げと色化粧による装飾
- 8 施釉と焼成
- 9 土と釉薬による装飾(A4 サイズタイル)タイルの成形
- 10 タイルの装飾
- 11 自分で考える土や化粧などによる装飾(小皿 5 枚セット)小皿の成形
- 12 小皿の仕上げと装飾
- 13 施釉と焼成
- 14 タイル作品の額装
- 15 合評

受講上の注意 陶芸の作業は家ではできません。遅刻せず出席することが重要です。

特記事項

教員名 浜本 隆司 **科目名** 専門実習Ⅳ

教員実務経験 担当教員は大きな絵画を中心にオブジェやインスタレーションなどのアート作品の制作を、40年以上続けています。個展や企画グループ展で関西、愛知、東京、そして海外での発表経験が多くありますので、アートの発表現場を通した目で、制作と発表の指導を行なっています。

授業目的と到達目標 ・リアリティのある表現主題と表現方法を追求する。 ・大画面

授業概要 ・展示ホール作品展(夏期課題) ・卒業制作(作品以上の制作)

成績評価方法・基準 主に作品評価(平常点と絵画制作へのスタンス) 70% 出席率 30%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

1	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	エスキース	キャンバスの調達をする。
2	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	エスキース	制作計画
3	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	キャンバスに制作する。	初期の下絵を制作する。
4	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
5	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
6	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
7	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
8	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
9	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
10	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
11	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
12	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
13	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
14	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
15	課題1	自由作品	作品	F100号	2点	作品のプレゼン計画、展示研究	

受講上の注意

特記事項

教員名 吉田 真紀子 **科目名** 専門実習Ⅳ

教員実務経験 版画作家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、展覧会の仕方、ポートフォリオの作り方などを指導します。

授業目的と到達目標 2学年前期までの版画、専門基礎実習、専門実習で学んだことを統合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ

授業概要

成績評価方法・基準 作品 90% 受講姿勢 10%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス
- 2 後期の制作計画を立案する
- 3 卒業制作の展示を計画する 自らのテーマを再認識する
- 4 作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る
- 5 緩やかな試みの時期として10月中旬まで数種類の版を試してみる
- 6 [作品] 原画制作
- 7 製版・印刷
- 8 [作品]・原画制作
- 9 製版・印刷
- 10 [作品]・原画制作
- 11 製版・印刷
- 12 パネル張り・額装 異形パネル等、必要であれば木材加工にてパネル製作
- 13 展示方法を吟味する
- 14 この時期までの作品のポートフォリオを完了させる
- 15 作品採点・合評・まとめ

受講上の注意 額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり、計画的な作業を求めます。

特記事項 後期専門実習Ⅳは専門実習Ⅱと連携した内容で授業を行う。※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品] 製版・印刷の作業実習は遍在して含まれている。

教員名 桜井 智裕 **科目名** 専門実習Ⅳ

教員実務経験 造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導していきたいと思えます。

授業目的と到達目標 これまでの学習から、各自テーマを設定し作品を制作する。

授業概要

成績評価方法・基準 作品内容及び完成度 80% 出席、授業態度 20%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 卒業制作資料収集 2 完成予想図・モデル又は図面を描く
- 2 卒業制作資料収集 2 完成予想図・モデル又は図面を描く
- 3 卒業制作資料収集 2 完成予想図・モデル又は図面を描く
- 4 作品制作
- 5 作品制作
- 6 作品制作
- 7 作品制作
- 8 作品制作
- 9 作品制作
- 10 中間チェック
- 11 作品制作
- 12 作品制作
- 13 作品制作
- 14 作品制作
- 15 合評

受講上の注意 作業用の服装で来てください。雑巾又はタオル、工具類、スケッチブックと筆記用具は毎回、必ず持ってきてください。

特記事項

教員名 大原 千尋 **科目名** 専門実習Ⅳ

教員実務経験 陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 既成概念にとらわれない自由な思考に基づく新しい陶表現を追求する。表現に適した材料の選択を体得する。各自のテーマに沿った陶芸表現を追求する。卒業制作作品の制作。

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 課題の評価 50%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 16 卒業制作のアイデアスケッチ
- 17 アイデアスケッチから土の選択、釉薬の決定、焼成方法の決定
- 18 マケット制作
- 19 土作り
- 20 成形
- 21 成形
- 22 成形
- 23 成形
- 24 装飾
- 25 装飾
- 26 素焼き
- 27 加飾、釉薬掛け
- 28 本焼き
- 29 展示の準備、展示台制作
- 30 合評

受講上の注意 遅刻欠席しないこと。作業しやすい服装で受講すること。

特記事項

教員名 八田 香織 **科目名** 専門実習V

教員実務経験 行動美術協会会員(審査員)、日本美術家連盟会員としての作家活動並びにカルチャースクールでの指導経験を元に授業を行います。

授業目的と到達目標 各自が内に秘めている混沌としたある部分が、外との視覚的接触により物造りの欲求へと展開していく。その内と外との通路を自ら導く為の手技や、思考の在り様についての指導。

授業概要 想像力、個性を打ち出す

成績評価方法・基準 総合評価 100%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 課題1 シュール画 作品 F50号 シュール画のエスキース キャンバスの調達をする。
- 2 課題2 シュール画 作品 F50号 キャンバスに制作する。 初期の下絵を作成する。
- 3 課題3 シュール画 作品 F50号 彩色描画 表現技法の研究
- 4 課題4 シュール画 作品 F50号 彩色描画 表現技法の研究
- 5 課題5 シュール画 作品 F50号 彩色描画 表現技法の研究
- 6 課題6 シュール画 作品 F50号 合評
- 7 課題7 抽象画 作品 180×90cmの板版 抽象画のエスキース 初期の下絵を作成する。
- 8 課題8 抽象画 作品 180×90cmの板版 彩色描画 表現技法の研究
- 9 課題9 抽象画 作品 180×90cmの板版 合評
- 10 課題10 自画像 作品 F100号 自画像のエスキース キャンバスの調達をする。
- 11 課題11 自画像 作品 F100号 キャンバスに制作する。 初期の下絵を作成する。
- 12 課題12 自画像 作品 F100号 彩色描画 表現技法の研究
- 13 課題13 自画像 作品 F100号 彩色描画 表現技法の研究
- 14 課題14 自画像 作品 F100号 彩色描画 表現技法の研究
- 15 課題15 自画像 作品 F100号 合評

受講上の注意

特記事項 表現力、自分の表現したいものは何か。感覚。技術的完成度や素材の扱い方など、および授業態度で成紹を評価する。

教員名 吉田 真紀子 **科目名** 専門実習Ⅴ

教員実務経験 版画作家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、展覧会の仕方、ポートフォリオの作り方などを指導します。

授業目的と到達目標 1 学年次の版画、専門基礎実習で学んだことを統合する。自分にとっての重要なテーマを決めそれを実現させる版種を選び制作する。同時に作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要

成績評価方法・基準 作品 90% 受講姿勢 10%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス
- 2 年間の制作計画を立案する
- 3 前期末の展示を計画する
- 4 自らのテーマを文章にしたり、エスキースに描いたりする
- 5 緩やかな、試みの時期として5月末あたりまで数種類の版を試してみる
- 6 作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る
- 7 テーマに沿った版種を決める
- 8 [作品]・原画制作
- 9 製版・印刷
- 10 [作品]・原画制作
- 11 製版・印刷
- 12 展示方法を吟味する。パネル張り・額装
- 13 この時期までの作品のポートフォリオを完了させる
- 14 作品搬入・合評
- 15 作品搬出・まとめ

受講上の注意 額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり、計画的な作業を求めます。

特記事項 ※前期専門実習Ⅲと連携した内容で授業を行う。※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品] 製版・印刷の作業実習が含まれている。

教員名 桜井 智裕 **科目名** 専門実習V

教員実務経験 造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導していきたいと思えます。

授業目的と到達目標 金属加工のいろいろな技法を知り、修得して表現の幅を広げるとともに、より新たな表現方法を模索し作品制作に活かす。卒業してからの「物作り」としての、基本的な知識と金属で形を作っていくプロセスを学ぶとともに応用力も養う。

授業概要

成績評価方法・基準 作品の完成度 95% 平常点 5%

教科書 プリント配布

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 時計(象嵌) 象嵌の技法を用いた作品制作 洋白、真鍮、銅 課題説明 アイデアチェック
- 2 作品制作 象嵌部分の制作 糸鋸で切り出し、削り微調整
- 3 作品制作 象嵌部分の制作 はめ込み、ロウ付け
- 4 作品制作 象嵌部分の制作削り、磨き
- 5 作品制作 本体部分の制作 本体の加工とその他の部品製作
- 6 作品制作 その他の部品の製作
- 7 作品制作 組み立て仕上げ合評時の課題の説明
- 8 「あかり」(技法は自由) 蜀台や照明器具など「あかり」にまつわる作品制作 アイデアチェック、作品制作
- 9 作品制作 技法が自由なので個人個人で制作工程が異なります
- 10 作品制作 例、本体部分制作
- 11 作品制作 例、本体部分制作
- 12 作品制作 例、パーツ部分制作
- 13 作品制作 例、パーツ部分制作
- 14 作品制作 例、本体と部品の組み立て、ロウ付け
- 15 作品制作 仕上げ 合評

受講上の注意 実習なので作業用の服装で来てください。ハイヒールやサンダルは不可です。動きやすい靴を履いてきてください。雑巾又はタオル、工具類、スケッチブックと筆記用具は毎回、必ず持ってきてください。

特記事項

教員名 大原 千尋 **科目名** 専門実習V

教員実務経験 陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 一年次で習得された基礎をもとに、より自由な発想でイメージ表現できるように演習する。

授業概要 主に手びねり、たたらの技法を用いてあらゆる表現の可能性を探る。必要に応じて、月曜日の「ろくろ」課題の削りや仕上げの時間とする。窯づめ、焼成の実習にも取り組む。

成績評価方法・基準 出席状況 50% 課題提出状況 25% やる気 20%
片付け(掃除) 5%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 手びねりの展開 「壺を作る」 鑑賞(図書室利用) スケッチ(形を決める)
- 2 手びねりで壺を作る
- 3 壺の文様を考える スケッチから文様を作る
- 4 絵付け
- 5 ろくろの展開(ティーポットか急須) パーツ作り
- 6 仕上げ(パーツの接合など)
- 7 施釉と焼成
- 8 9
 第5回のティーポット(急須)に合うティーセットを作る
- 10 11 12
 ティーカップ、コーヒーカップ、ゆのみ
- 13 ソーサー(受け皿)作り
- 14 施釉と焼成
- 15 合評

受講上の注意 作業しやすい服装で受講すること。遅刻欠席をしないこと。

特記事項

教員名 八田 香織 **科目名** 専門実習VI

教員実務経験 行動美術協会会員(審査員)、日本美術家連盟会員としての作家活動並びにカルチャースクールでの指導経験を元に授業を行います。

授業目的と到達目標 想像力、個性を打ち出す。

授業概要 卒業制作作品の指導

成績評価方法・基準 総合評価 100%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- | | | | | | | | |
|----|-----|--------|----|-------|----|----------------|------------------------|
| 1 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | エスキース | キャンバスの調達をする。 |
| 2 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | エスキース | 制作計画 |
| 3 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | | キャンバスに制作する。初期の下絵を制作する。 |
| 4 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 5 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 6 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 7 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 8 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 9 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 10 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 11 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 12 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 13 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法の研究 | |
| 14 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 作品のプレゼン計画、展示研究 | |
| 15 | 課題1 | 自由制作作品 | 作品 | F100号 | 2点 | 作品選考、合評 | |

受講上の注意

特記事項 表現力、自分の表現したいものは何か。感覚。技術的完成度や素材の扱い方など、および授業態度で成績を評価する。

教員名 大船 光洋 **科目名** 専門実習Ⅵ

教員実務経験 版画作家として、個展やグループ展、アートフェア等での作品発表の経験を基に、版での作品制作の楽しさを伝えます。

授業目的と到達目標 2学年前期までの版画、専門基礎実習、専門実習で学んだことを総合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ。

成績評価方法・基準 受講姿勢 10% 作品評価 90%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 ガイダンス
- 2 後期の制作計画を立案する
- 3 卒業制作の展示を計画する自らのテーマを再認識する。
- 4 作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る。
- 5 緩やかな、試みの時期として10月中旬まで数種類の版をためしてみる。
- 6 [作品]・原画制作
- 7 製版・印刷
- 8 [作品]・原画制作
- 9 製版・印刷
- 10 [作品]・原画制作
- 11 製版・印刷
- 12 パネル張り・額装異形パネル等、必要とされれば木部材加工にてパネル製作
- 13 展示方法を吟味する。
- 14 この時期までの作品のポートフォリオを完了させる
- 15 作品採点・合評・まとめ

受講上の注意 額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり、計画的な作業を求めます。

特記事項 ※前期専門実習ⅡとⅣはこの連携した内容で授業を行う。※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品] 製版・印刷の作業実習が含まれている。

教員名 加藤 涼子 **科目名** 専門実習VI

教員実務経験 ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。

授業目的と到達目標 これまでに学んできた技術や知識をもとに計画し効率よく作品を作り上げていきます。また臨機応変に物事に対応する柔軟な判断力も磨いていきます。

授業概要

成績評価方法・基準 完成度・デザイン 30% 作品提出 20% 授業態度 10%
出席率 40%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 卒業制作の為の企画 テーマを考え・表現方法を検討・資料チェック
- 2 デザイン画・図面作成・完成予想図・実寸図面の作成・サンプル作り
- 3 デザインに基づいた作品の制作
- 4 デザインに基づいた作品の制作
- 5 デザインに基づいた作品の制作
- 6 デザインに基づいた作品の制作
- 7 デザインに基づいた作品の制作 中間チェックと検証・変更や追加を検討
- 8 デザインに基づいた作品の制作
- 9 デザインに基づいた作品の制作
- 10 デザインに基づいた作品の制作
- 11 デザインに基づいた作品の制作
- 12 デザインに基づいた作品の制作
- 13 デザインに基づいた作品の制作
- 14 展示環境の作成
- 15 展示環境の作成・合評

受講上の注意 作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

教員名 秋永 邦洋 **科目名** 専門実習 VI

教員実務経験 陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 既成概念にとらわれない自由な思考に基づく新しい陶表現を追求する。表現に適した材料の選択を体得する。各自のテーマに沿った陶芸表現を追求する。卒業制作作品の制作

授業概要 卒業制作 I と同一内容「卒業制作」とする。10 から 11 月にテストピースの焼成を多くし、素材、技法に関する基本的なことを復習し、新しい表現につなげる実験をおこなう。就職、進学のための作品集の制作も同時進行させる。

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 卒業制作の評価 50%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 卒業制作のアイデアスケッチ
- 2 アイデアスケッチから土の選択、釉薬の決定、焼成方法の決定
- 3 マケット制作
- 4 土作り
- 5 成形
- 6 成形
- 7 成形
- 8 成形
- 9 装飾
- 10 装飾
- 11 素焼き
- 12 加飾、釉薬掛け
- 13 本焼き
- 14 展示の準備、展示台制作
- 15 合評

受講上の注意 遅刻欠席しないこと。作業しやすい服装で受講すること。

特記事項

教員名 森 慎司 **科目名** 卒業制作 I

教員実務経験 主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。

授業目的と到達目標 絵画制作における表現の可能性を追求しつつ、より豊かな描画表現を探り、自己表現の可能性を高め、多種多様の表現能力を得る。

授業概要 テーマごとの課題制作 多彩なテクスチャやタッチ、線描、発色などの効果を探る

成績評価方法・基準 課題作品の提出 85% 平素の受講姿勢と学習意欲など 15%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 油彩画の基本技術と色彩効果について (講義)
- 2 テクスチャと下地制作 1
- 3 テクスチャと下地制作 2
- 4 テクスチャと下地制作 3
- 5 課題 1 描画技法を用いた作品 1
- 6 課題 1 描画技法を用いた作品 2
- 7 課題 1 描画技法を用いた作品 3
- 8 課題 1 描画技法を用いた作品 4
- 9 課題 2 複合効果を用いた作品 1
- 10 課題 2 複合効果を用いた作品 2
- 11 課題 2 複合効果を用いた作品 3
- 12 課題 2 複合効果を用いた作品 4
- 13 ポートフォリオの制作(A4 ファイル) 作品撮影等
- 14 ポートフォリオの制作(A4 ファイル) ファイルデザインの計画
- 15 ポートフォリオの制作(A4 ファイル) ファイルの制作

受講上の注意 アクリル系の材料を用い、削るなどの作業も行うので服装に留意すること

特記事項

教員名 池田 高広 **科目名** 卒業制作 I

教員実務経験 版画作家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、額装の方法や展覧会の展示方法、案内状の作り方などを指導します。

授業目的と到達目標 1 学年次の版画、専門基礎実習で学んだことを総合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ。搬入搬出など作品の取り扱いを知る

授業概要 前期ではあるが、後期学期末の卒業制作を視野に入れて考える。展示方法も考察しつつ、制作可能な作品サイズ、点数などを計画実習する。

成績評価方法・基準 作品 90% 受講姿勢 10%

教科書

参考書・参考文献 プリント、参考資料など

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 年間制作計画を立案する。卒業制作 I では前期末の展示を計画する。作品制作作業
- 2 作品制作（製販、印刷作業）
- 3 作品制作（製販、印刷作業）
- 4 自らの固有なメッセージ性を知る。作品制作（製販、印刷作業）
- 5 作品制作（製販、印刷作業）
- 6 作品制作（製販、印刷作業）
- 7 作品制作（製販、印刷作業）
- 8 展示方法を吟味する。作品制作（製販、印刷作業）
- 9 作品制作（製販、印刷作業）
- 10 作品制作（製販、印刷作業）
- 11 作品制作（製販、印刷作業）
- 12 夏期休暇前に学内ギャラリースペースを利用し展示する。展示計画を立てる。作品制作作業
- 13 展示のための準備、額装、キャプション作りなど。
- 14 搬入、展示
- 15 搬出・合評

受講上の注意 額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要である。計画的な作業を求めます。

特記事項

教員名 八木 牧子 **科目名** 卒業制作 I

教員実務経験 ジュエリー 作家の元で修行後、読売新聞社の彫金教室や大阪市立クラフトパークなどで Metal Work の技術を指導する現役彫金作家が指導します。

授業目的と到達目標 作品制作における考え方や手順及び適切な技法、素材の選び方を学ぶ。

授業概要 各自テーマを設定し資料を収集し、適切な材料、技法を探し、作品制作を行う。卒業制作に使用できる様々な石留め技法を学びます。

成績評価方法・基準 作品の完成度 50% 課題への取り組み 20% 理解度 20%
出席状況 10%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL <https://youtu.be/utpLLqJSKnk> URL) <https://youtu.be/wm6PyFZkW5M>
<https://youtu.be/9-nz4LKAT34>

授業計画(予定)

- 1 「カット石を使ったバスケットセッティング」デザイン制作
- 2 石座の制作・爪留め技法の練習
- 3 チョーカー制作・組み立て・完成
- 4 「根付け」デザイン制作
- 5 制作工程プランを考え作品制作に必要な材料収集
- 6 根付け制作
- 7 根付け制作
- 8 根付け制作
- 9 根付け制作
- 10 「カット石を使ったパイプセッティング」デザイン制作
- 11 石座の制作
- 12 ジュエリー制作
- 13 ジュエリー制作
- 14 ジュエリー制作
- 15 石留めをして磨き仕上げ 完成

受講上の注意 後期の卒業制作に向けての Pre(事前)授業です。アイデアを考える、石留めの技法を学ぶ、制作するなどそれぞれの時間配分を考え経験し卒業制作の練習をして欲しいです。

特記事項

教員名 秋永 邦洋 **科目名** 卒業制作 I

教員実務経験 陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 1～2年で習得した表現方法を発展させ、既成概念にとらわれない自由な発想にもとづいた卒業制作に取り組む。表現に適した材料の選択を体得する。各自のテーマに沿った陶芸表現を追求する。

授業概要 制作過程で生じる様々な問題点について個々に対処し、より高度な表現をめざした卒業制作に向かう。できれば就職、進学のための作品集の制作も同時進行させる

成績評価方法・基準 受講姿勢 50% 卒業制作の評価 50%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 卒業制作のアイデアスケッチ
- 2 アイデアスケッチから土の選択、釉薬の決定、焼成方法の決定
- 3 マケット制作
- 4 土作り
- 5 成形
- 6 成形
- 7 成形
- 8 成形
- 9 装飾
- 10 装飾
- 11 素焼き
- 12 加飾、釉薬掛け
- 13 本焼き
- 14 展示の準備、展示台制作
- 15 合評

受講上の注意 遅刻欠席しないこと。作業しやすい服装で受講すること。

特記事項

教員名 八田 香織 **科目名** 卒業制作Ⅱ

教員実務経験 行動美術協会会員(審査員)、日本美術家連盟会員としての作家活動並びにカルチャースクールでの指導経験を元に授業を行います。

授業目的と到達目標 絵画制作における表現の可能性を追求しつつ、より豊かな描画力を修得する。オリジナルな画風を構築し、独自のテーマを明確にする。コンセプトから制作へ、展示作品としてグローバルなプレゼンテーションの一貫性を体得する。

授業概要 絵画制作の授業として行う。各自、独自の制作プログラムを作成し、絵画制作における表現の可能性を追求する。オリジナルな作品(大画面)創りのコンセプトを重視しながら制作計画に添って行う。

成績評価方法・基準 作品の完成度を重視する。 100%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- | | | | | | | |
|----|-----|---------|-------|----|-----------|-------------------|
| 1 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | エスキース | キャンバスの調達をする。 |
| 2 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | エスキース | 制作計画 |
| 3 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | キャンバス | に制作する。初期の下絵を作成する。 |
| 4 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 5 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 6 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 7 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 8 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 9 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 10 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 11 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 12 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 13 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 14 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 彩色描画、表現技法 | の研究 |
| 15 | 課題1 | 自由制作画作品 | F100号 | 2点 | 作品プレゼンの計画 | 展示研究 |

受講上の注意

特記事項

教員名 吉田 真紀子 **科目名** 卒業制作Ⅱ

教員実務経験 版画家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、額装の方法や展覧会の展示方法を指導します。

授業目的と到達目標 2学年前期までの版画、専門基礎実習、専門実習で学んだことを総合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要

成績評価方法・基準 作品 90% 受講姿勢 10%

教科書 なし

参考書・参考文献 プリント、参考資料など

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 前期までの課題作品を検討する。テーマ・コンセプトの明確化。計画表提出。作品制作作業
- 2 作品制作（製販、印刷作業）
- 3 作品制作（製販、印刷作業）
- 4 テーマに適した版種の決定。作品の形態について考える。現代美術の作品形態の多様性について学ぶ。展示作品のサイズ制作材料を吟味する。作品制作（製販、印刷作業）
- 5 作品制作（製販、印刷作業）
- 6 作品制作（製販、印刷作業）
- 7 年内完成をめどとして制作期間のプログラムシートを作成。これが実現可能か検討する。
- 8 作品制作（製販、印刷作業）
- 9 作品制作（製販、印刷作業）
- 10 作品制作（製販、印刷作業）
- 11 作品制作及び額装パネル張り等は冬季休暇前に完了させる。作品制作（製販、印刷作業）
- 12 作品制作（製販、印刷作業）
- 13 作品制作（製販、印刷作業）展示のための準備
- 14 額装し架設展示をして採点、合評。
- 15 2月中旬の本展示にそなえる。

受講上の注意 額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり、計画的な作業を求めます。展示・搬入搬出には必ず参加すること。

特記事項

教員名 八木 牧子 **科目名** 卒業制作Ⅱ

教員実務経験 ジュエリー 作家の元で修行後、読売新聞社の彫金教室や大阪市立クラフトパークなどで Metal Work の技術を指導する現役彫金作家が指導します。

授業目的と到達目標 これまでの学習から、各自テーマを設定し作品を制作する。

授業概要 各自のテーマをはっきりさせ、考え方を確立し、作品制作の視点から、彫金、鍛金、ワックス等より適切な技法を選び、制作を進めていく。

成績評価方法・基準 作品の完成度 60% 課題への取り組み・態度 15% 技術理解度 15% 出席状況 10%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 夏休みに準備した卒業制作のプレゼンテーション
- 2 作品制作に必要な材料収集
- 3 図面またはモックアップ(原寸大模型)作り
- 4 作品制作
- 5 作品制作
- 6 作品制作
- 7 作品制作
- 8 作品制作
- 9 作品制作
- 10 中間チェック
- 11 作品制作
- 12 作品制作
- 13 作品制作
- 14 作品制作
- 15 合評

受講上の注意 前期授業「卒業制作Ⅰ」のPre(事前)授業で経験し学んだ事を活用し卒業制作に挑んでもらえればと思います。

特記事項

教員名 大原 千尋 **科目名** 卒業制作Ⅱ

教員実務経験 陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。

授業目的と到達目標 二年次後半の多くを費やす「卒業制作」に向けて、各自のコンセプトやテーマの決定から実際の制作に取り掛かれる準備と試作＋本作品の制作。

授業概要 9月後半、10月～11月に試作やテストピースを重ね、素材・技法に関する基本的なことを復習し、新しい表現につながる実験を行う。就職・進学のための作品集の制作も同時進行させる。

成績評価方法・基準 出席状況 50% 卒業制作の完成度 50%

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

授業計画(予定)

- 1 卒業制作作品プレゼンテーション(スケッチに基づき制作の計画を発表し相談する)
- 2 試作を考える(何パターンか考える)
- 3 試作を作る
- 4 試作を作る
- 5 装飾や釉薬のテストをする
- 6 試作の施釉と焼成
- 7 本制作に取り掛かる
- 8 本制作の成形
- 9 本制作の成形
- 10 本制作の成形
- 11 本制作の装飾、仕上げ
- 12 作品の焼成方法と展示方法の検討
- 13 作品の焼成と展示方法の決定
- 14 作品の焼成
- 15 合評

受講上の注意 制作工程を考え計画的に作業すること。

特記事項